

# 中国朝鮮族の幼稚園における 朝鮮族幼児の民族教育と異文化経験

弘前大学大学院教育学研究科  
学校教育専攻・学校教育専修  
幼児教育分野  
金 明実

# 目次

序章	1
第1節 問題の背景	1
第2節 先行研究の検討	1
第3節 本研究の目的と方法	2
第4節 本研究の意義と限界	3
第1章 中国の少数民族教育	5
第1節 教育システム	5
第1項 中国の学校制度の概要	5
第2項 少数民族教育システム	7
第2節 「民族平等」の政策理念	9
第1項 民族学校の設立	10
第2項 民族言語の重視	10
第3項 少数民族の文化の尊重	11
第3節 共産主義思想の教育	11
第1項 「国民教育」としての少数民族教育	11
第2項 学校での宗教への否定	12
第4節 二言語教育	12
第1項 重視されている二言語教育	12
第2項 少数民族言語の現状	13
第3項 二言語教育の種類	14
第4項 教員の二言語能力	14
第5節 まとめ	15
第2章 中国朝鮮族の教育	17
第1節 中国朝鮮族の教育の歴史	17
第1項 中国建国前の朝鮮族の教育	17
第2項 日本占領期の朝鮮族の教育	18
第3項 中国建国の朝鮮族の教育	18
第4項 朝鮮族教育の発展期	18
第5項 朝鮮族教育の後退期	19
第6項 朝鮮族教育の再生・発展期	19
第2節 朝鮮族の教育と韓国・北朝鮮・中国	20
第1項 朝鮮族と韓国人	20
第2項 朝鮮族と朝鮮民主主義人民共和国	21
第3項 漢語教育の重視	21
第4項 消えつつある朝鮮族の文化	22
第3節 中国朝鮮族の学校のカリキュラム	22
第1項 一般的なカリキュラム	22
第2項 集住地区と散住地区の朝鮮族の学校教育	26
第4節 漢語教育の意味	26
第1項 中国の公用語としての漢語	27
第2項 就職に必要とされる漢語	27
第3項 朝鮮語と漢語の教育のジレンマ	28

第5節	まとめ	28
第3章	中国朝鮮族の幼稚園	30
第1節	中国朝鮮族の幼稚園の一般的背景	30
第1項	朝鮮族幼稚園の教育目的	30
第2項	朝鮮族幼稚園の教育内容と方法	31
第3項	漢語教育	31
第2節	中国朝鮮族の幼稚園の一日と教員の教育的配慮	32
第1項	調査の概要	32
第2項	一日の様子	33
第3項	教員の言葉遣い	40
第4項	文字環境への配慮	41
第3節	民族教育	41
第1項	民族語の教育	42
第2項	生活の一部としての朝鮮族の文化	42
第4節	異文化経験	43
第1項	韓国語・韓国文化の流入	44
第2項	漢語・漢族文化の学習	45
第5節	まとめ	46
終章		48
第1節	朝鮮族の幼稚園における民族教育と異文化経験	48
第1項	中国の幼稚園に共通する経験	48
第2項	少数民族の幼稚園に共通する経験	48
第3項	朝鮮族の幼稚園に独自の経験	49
第4項	T幼稚園における民族教育と異文化経験	49
第2節	朝鮮族の幼稚園の課題	49
第3節	今後の課題	50
引用・参考文献		52

## 序章

### 第1節 問題の背景

中国朝鮮族は中国に存在する少数民族であるが、朝鮮半島から中国へと移住して定着した民族であり、朝鮮半島の人々とルーツを同じくしている。中国朝鮮族は貧しいながらも朝鮮半島に起源をもつ文化を伝承し、現在では西洋化されつつある韓国以上に朝鮮半島の文化的な伝統を残した民族となっている。しかし、その文化のなかには、中国での生活において形成された独自の部分も存在する。このような独自の文化の形成に幼稚園の教育がどのようにかかわっているのかへの関心が、本研究の基盤にある。

また、中国朝鮮族には自分たちが中国人でも朝鮮人でもないという意識がある。これは国民性と民族性という、実際には両立可能なアイデンティティのどちらかを選択することを迫られたことによる悲劇なのであるが、中国と朝鮮半島の間にあるとでもいうべき独自のアイデンティティの形成に、中国朝鮮族が強いられることになる漢語の学習が何らかの影響を及ぼしているのではないだろうか。すなわち、ただ民族教育を通じて自文化の特殊性を修得することだけでなく、漢族の言語や文化という異文化との接触から自分たちは漢族では「ない」という否定型の認識が学校において形成・強化されているのではないだろうか。そのような認識は中国のみを異化の対象とするのではなく、朝鮮半島の文化との接触にともなって朝鮮半島文化にも適用されているように思われる。このようなおおまかな仮説が、本研究において朝鮮族幼稚園の民族教育と異文化経験に着目する理由である。

以上のような背景から、学校教育のはじまりである幼稚園での中国朝鮮族の幼児の教育を本研究では対象とする。

### 第2節 先行研究の検討

中国には漢民族と55の少数民族が住んでいる。2010年の第六次全国人口統計によると、中国の総人口は13億7,054万人である。そのうち少数民族の総人口は約1億1,379万人であり、中国総人口の8.49%を占めている。

中華人民共和国憲法（1982年）の第4条によると、「中華人民共和国の各民族はすべて平等である。国家は各少数民族の合法的な権利と利益を保障し、各民族の平等、団結、相互援助の関係を維持、発展させる。いかなる民族の差別と圧迫を禁止し、民族団結を破壊し、民族分裂を引き起こす行為を禁止する」と規定されており、中国の教育はすべての民族に平等に行なわれることが明記されている。また、中華人民共和国憲法第119条には「民族自治地方の自治機関は、自主的に当該地方の教育、科学、文化、衛生体育事業を管理し、民族の文化遺産を保護・管理し、民族文化を発展・繁栄させる」と、少数民族が自主的に民族の教育と文化を発展する権利を認めている。このように中国の少数民族教育は、中国政府の「民族平等」の政策理念を基に行われている（小川、2001）。

しかし、実際には少数民族教育にもさまざまな問題が指摘されている。ハス額爾敦（2005）は、少数民族教育は少数民族の伝統や文化を尊重し、民族語や文字を教育する「民族化」教育である一方、少数民族を「国民国家」へ統合させる教育でもあると指摘している。すなわち、少数民族教育は漢族の文化を系統的に伝承するシステムになっているとするのである。とりわけ、少数民族教育の主要な特徴である二言語教育は、民族教育の中心を言語とすれば、漢族の文化を伝承するシステムと呼ぶにふさわしいものとみなせるかもしれない。近年では、漢語教育の質の向上が少数民族についても目指されるようになっていく。

中国朝鮮族は、このような中国の少数民族の一つである。2010年の第6次全国人口統計は各民族の人口についてはまだ公表されていないため、最新のデータとなる2000年第五次の全国人口統計のデータによると、朝鮮族の人口は192万3,842人である。中国朝

鮮族は、元々は朝鮮半島から実質的に国境となっていた鴨緑江、豆満江を越えて移住してきた人々であり、大量に移住し始めたのは 1869 年に朝鮮北部で起こった大飢饉の時期以降である。

中国朝鮮族は、主に中国東北 3 省（黒龍江省、吉林省、遼寧省）に居住しており、吉林省の東南部にある延辺朝鮮族自治州は中国朝鮮族の人口が最も集中しているところであり、2001 年時点で中国の朝鮮族総人口の約 43% 占めている（小川、2001）。延辺朝鮮族自治州の公用語は漢語と朝鮮語の二言語である。延辺朝鮮族自治州の州都は延吉市であり、市内には朝鮮族のための幼稚園から大学（延辺大学）まで民族のための教育施設が系統的に整備されている。

中国朝鮮族は満州事変以後に、日本の占領の下で奪われていた民族教育の権利を 1945 年の中国による解放の後に取り戻した。人々の生存すら非常に難しい経済状態であったが、経済の立て直しを図りつつ、朝鮮族は自らの民族学校を設立し（崔斌子、1995）、朝鮮族の子どもに民族意識を育てた。また、1950 年から公式に二言語教育が行われ（魯在化、1989）、国の標準語である漢語と朝鮮民族の言語である朝鮮語を並行して教授することになった。このように民族教育は少数民族教育政策によっても支持され、二言語教育の体制は現在まで続けられている。さらに、現在の漢語への重視という社会からの求めによって、義務教育において朝鮮族の学生にとって漢語の授業の時間数が多くなっており（尹貞姫、2005）、「漢語漢文」をただ教えるだけでなく、応用力や実践力がより重視されるようになっている（金紅梅、2010）。

朝鮮族の学校においては、朝鮮族の人口減少、国内沿岸部への移動などにより朝鮮族共同体の規模が減少し、民族教育の維持が危機をもたらしていることが問題となっている（出羽、2007）。また、朝鮮族の保護者によってすら朝鮮族の民族学校ではなく一般の学校が選ばれる傾向も、民族教育を衰退させる原因となっている。キムクムラン（2006）、崔美玉（2007）は、中国国内の経済発展に伴って漢語が重視されることにより、漢語や漢族の文化が重視されることになり、朝鮮族の幼稚園が朝鮮族自身にも選ばれず漢族の通う幼稚園に幼児が流出してしまう、という問題が生じており、このことが朝鮮族の幼稚園での民族教育に大きな問題をもたらしていると指摘している。実際に、朝鮮族の幼稚園教育においても漢語教育が強化されていることも指摘されている（金紅梅、2010）。一方で、このような民族教育の衰退に対応するために、韓国を通じて民族教育を行おうとする親たちが存在する。金成子（2010）は散住地区の子どもが朝鮮族の言語や文化を修得しないで成長することを問題視する一部の保護者が、民族意識を高めるために韓国への留学をさせたり、韓国語の塾に通わせたりすることによって、民族教育を補完しようとしていることを指摘している。

### 第 3 節 本研究の目的と方法

先行研究では、少数民族教育全般として、国民として諸民族の統合が民族教育以上に重視されていること、二言語教育政策における漢語の重視のなかで朝鮮族の文化が衰退していること、民族教育を保障するために韓国への留学や韓国語の教育を行うことが主に散住地区で行われていることなどが指摘されている。

しかし、民族性は自文化内での生活によってのみ意識されるわけではないことは明らかである。むしろ、金成子（2010）の指摘したように、文化的マイノリティであることをより意識する地域においてこそ、民族教育を積極的に推進しようとする姿も見受けられる。このような意味で、異文化経験も民族性を意識する重要な経験となるのではないかと考えられる。

そこで本研究では、中国の正規の教育のはじまりとなる幼稚園において、どのように朝鮮族としてのアイデンティティが形成されていくのかを明らかにする一端として、朝鮮族の幼稚園のなかで幼児がどのように民族の文化を受け継いでいるのか、また中国の教育機関での二言語教育をはじめとした教育によって、どのように異文化を経験しているのかを明らかにすることを目的とする。

以上の目的を達成するために、延辺朝鮮族自治州にある二言語教育を行う私立の朝鮮族の幼稚園である T 幼稚園の日常を教師に依頼してビデオ撮影をしてもらい、そのデータおよび教師への質問を踏まえて考察を行う。

#### 第4節 本研究の意義と限界

本研究の意義として、一私立幼稚園の事例とはいえ、これまでほとんど焦点が当てられてこなかった朝鮮族の幼稚園で行われている民族教育の実態を明らかにできることがある。朝鮮族のための民族教育の機関である幼稚園がどれほど民族教育に力を入れているのかについて明らかにできること、異文化経験という側面からも考察を行うことで朝鮮族の幼稚園における民族教育の総合的な位置づけを明らかにできることは、今後の朝鮮族の民族文化の伝承を考えていくうえで重要である。また、この幼稚園が私立であるということで、国の要請以上に経営は重要な問題となるであろう。したがって、この幼稚園の事例は延辺の保護者が、幼稚園における教育に何を期待しているかをある程度まで反映したものとなるであろう。

しかし、本研究で扱う幼稚園は決して延辺の幼稚園の多様性を代表するものではない。T 幼稚園は中国の広大な地域のなかでの延辺の一私立幼稚園であり、日本の幼稚園の多様性からも類推できるようにここでの教育がすべての朝鮮族の幼稚園に当てはまるわけではないし、内容や方法、園児たちのかかわりや教員の考え方といった朝鮮族の幼稚園の状況をより明確にするためには、さらに広範なデータの収集が不可欠であろう。また、見られることや分析されることを想定できるビデオ撮影を依頼したデータやインタビューが、T 幼稚園の教員たちの見せたいものを反映するに過ぎず、いわば加工されたデータをもとにしているのではないか、という不安も存在する。日課表などの確認や、連続した日数を長時間撮影してもらうことによって部分的にこれらの問題を回避しようとしているが、直接の長期継続観察が行えていないことの問題は、朝鮮族としての筆者の経験や当事者性によっても避けられないものである。しかし、本研究に当たって複数の幼稚園に調査の依頼をしたが、同意を得られた園は限られていた。その背後には、教育方法を盗まれるのではないかという懸念が存在しており、幼稚園生活の長期の観察や複数の幼稚園の比較は、院生としての立場からは不可能であったし、幼稚園の関係者から望まれないものであった。そのため不十分であることはわかりながらも、調査に同意が得られた幼稚園を限界のある方法で取り上げることとなっている。今後のこの分野の研究では、複数の園の調査や長期の継続観察が不可欠となるであろう。

以上のような限界はあるものの、秘密主義的な部分が多だけに朝鮮族の幼稚園の現状を明らかにすることには独自の資料的な価値が存在し、その内容から今後の民族教育に関して示唆が得られる部分も多く、本研究には重要な意義があると考えられる。

#### 引用・参考文献

##### 中国語文献

- 1) 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育－「民族平等」理念の展開－』東信堂、2001

- 2) 哈斯額爾敦「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題－内モンゴル自治区の民族教育を中心に－」名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻『多元文化』第5巻、2005、pp. 265-280
- 3) 崔斌子「中国における朝鮮族教育の四十五年」東京都立大学人文学部『人文学報 教育学』30、1995、pp. 247-281
- 4) 魯在化 解説・訳「資料中国延辺朝鮮族教育史年表」東京学芸大学『国際教育研究』9、1989、pp. 22-44
- 5) 尹貞姫「中国における「国民教育」と「少数民族教育の相克」－中国朝鮮族学校における教育課程に着目して－」『国際開発研究フォーラム』30、2005、pp. 183-200
- 6) 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開－中国の普通話政策との関わりを中心に－」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第7期第2号、2010、pp. 71-84
- 7) 出羽孝行「中国朝鮮族の民族教育の現状に関する実証的研究」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』29、2007、pp. 130-144
- 8) 金成子「中国都市部における民族教育に関する一考察：北京に住む朝鮮族を事例として」『アジア社会文化研究』第11期、2010、pp. 37-57

#### 中国語文献

- 1) キムクムラン「延辺地区幼児教育の問題と対策」『延辺大学』2007、pp. 1-51
- 2) 崔美玉「朝鮮族幼児教育の質量分析及びその対策」『吉林省教育学院学報』第23巻第7期、2007、pp. 14-15
- 3) 「中国第六次全国人口統計」中華人民共和国国家統計局、2010  
「中国第五次全国人口統計」中華人民共和国国家統計局、2000
- 4) 「中華人民共和国憲法」中華人民共和国第5回全国人民代表大会第5次会議、1982

## 第1章 中国の少数民族教育

### 第1節 教育システム

#### 第1項 中国の学校制度の概要

中国の教育システムは一般的に、幼児教育、義務教育、後期中等教育、高等教育に分けられる。中国の少数民族教育も、基本的には中国の一般の教育システムに準じたものとなっている。

中国政府の管轄下にある主な幼児教育施設としては、託児所、幼稚園、学前クラスの3種類がある。託児所は0～3歳の子どもが通う施設で、国の衛生部門の所管であり、幼稚園は3～6歳の子どもが通う施設で、教育部門所管であり、学前クラスは小学校の一部であり、入学1年前の子どもが通う施設である。

義務教育は、初等教育と前期中等教育の2つの段階に分けられる。一般的に六三制で、小学校6年、中学校3年が義務教育の期間である。

後期中等教育には、普通高等学校、職業高等学校、普通中等専門学校、技工学校、成人高等学校、成人中等専門学校などがある。

高等教育は高等専門学校、大学、大学院などの教育を指す。高等専門学校は2-3年制であり、大学は一般的に4年制であるが、医学部は5年制である。大学院の修士課程は2-3年制であり、大学院の博士課程は3年制である。

#### 1. 幼児教育

中国の主な幼児教育施設である託児所、幼稚園は、乳幼児期の保育を行う施設として存在しているが、学前クラスは小学校の準備段階としての位置を占めている。

託児所は0～3歳の子どもが通う施設であり、国の衛生部門の所管にある。託児所は主として母親の職場である企業、機関や地域社会（郷や村など）に設置されている。また、単独で設置されたり、幼稚園に隣接、併設されていたりする場合もある<sup>1)</sup>。

幼稚園は3～6歳の子どもが通う施設で、教育部門の所管である。幼稚園も託児所同様に職場や地域に設置されている<sup>2)</sup>。「幼稚園教育指導綱要」（2001年）<sup>3)</sup>によると、幼稚園教育は基礎教育の重要な構成部分で、中国の学校教育と生涯教育の基礎を定める段階であるとされている。また、幼稚園は、その地域に適した方法を取って教育を行い、幼児の一生の発達のために基礎を作るべきであるとされている。以上のように、幼稚園は幼児教育の主要な施設として認識されている。

幼稚園には国立幼稚園ばかりでなく民間幼稚園もあり、保護者のニーズに合わせることで、民間幼稚園は多様化し増加傾向にある<sup>4)</sup>。例えば2002年全国には11.18万か所の幼稚園があり、在園児は2036万人であった。一人っ子政策や子ども観の変化に伴って少子化が進んだ結果、この数値は2000年と比べると幼稚園数は5.9万か所減少し、在園児数が208.18万人減減少したものとなっているが<sup>5)</sup>、それにもかかわらず民間幼稚園やその園児数は増加傾向にある。1997年には民間幼稚園数は合計2.4万か所で全幼稚園数の13.5%を占めるに過ぎなかったが、2001年には4.4万か所と全幼稚園数の39.9%を占めるまでになり、園児数も1997年の135万人から342万人に増加している<sup>6)</sup>。

<sup>1)</sup> 浅野房雄、中山千章、足立広美「中国の幼児教育・保育」つくば国際短期大学『紀要』第35巻、2007、p. 27

<sup>2)</sup> 同前書。

<sup>3)</sup> 「幼稚園教育指導綱要」は、1999年に中華人民共和国教育部により制定され、2001年に実施された。

<sup>4)</sup> 曹能秀、無藤隆「中国における幼児教育の現状と課題」『お茶の水女子大学こども発達教育研究センター紀要』第3巻、2006、p. 43

<sup>5)</sup> 同前書、p. 40 表1

<sup>6)</sup> 同前書、p. 43



学前クラスは、小学校に属するものであり、入学1年前の子どもが通う施設である。貧しい農村部の幼稚園に行けない子どもたちにとって、学前クラスが幼児教育を受ける唯一の選択肢となっていることが多い<sup>7)</sup>。

## 2. 義務教育

義務教育は、国（国家教育委員会）のスタンダード、地方のスタンダード、学校のカリキュラムの3つに規定されている。1986年に「中華人民共和国の義務教育法」<sup>8)</sup>が公布されたことで、義務教育は従来の6年間から9年間に拡大され、義務教育の普及や教育内容の多様性が求められるようになった。また、中国政府のカリキュラム・教科書に対する行政原則は「一綱一本」から地域の実情に応じた独自の方針を容認する「多綱多本」へと変わってきた<sup>9)</sup>。従来は、教科書として認められるのは中国の綱要に沿った単一の国定教科書のみであったが、このような原則の変更に伴って、現在では各地方、各学校の実情に合わせて、多様な教科書の使用が許可されている。

## 3. 後期中等教育

中国の後期中等教育には、義務教育の後の段階であり、普通教育を行い大学の進学などにも適した普通高等学校や、職業生活の準備段階に当たり、専門知識や技術を高めることを目標とする専門学校などがある。2002年の教育部の調査によると、後期中等教育施設は全国に32,800か所あり、在学学生が約2,908万人であり、高等学校の入学率は42.8%に達するとされている<sup>10)</sup>。後期中等教育段階の修了時には、修了資格と高等教育の入学資格が別に与えられる。前者は高等学校卒業合同試験<sup>11)</sup>であり、後者は大学入学統一試験<sup>12)</sup>である。高等学校卒業合同試験は、高等学校の学生が卒業の基準に達していることを認定するものであり、卒業が認められるためには試験に合格することが求められる。大学入学統一試験は、大学に入学するために必要となる。

## 4. 高等教育

中国の高等教育機関には、大学や学院や高等専門学校があるが、高等教育には教育、研究と社会へ出る準備の3つの目的がある。2002年の教育部の調査によると、全国に2,003か所の高等学校があり、入学率は15%に達する<sup>13)</sup>。また、政府は2007年に「国務院の普通大学、高等職業学校と中等職業学校の家庭の経済の困難である学生に対しての援助政策の体系を制定する意見に関して」を告示し、高等教育の段階で国家奨学金、国家励志奨学金、国家の助学金、国家助学贷款、師範専攻の学生に対しての学費免除、勤工助学、授業料の減免などの経済的困難をかかえる学生に対しての出資援助を表明し、教育を受ける機会の保障を図っている。これには「奨、貸、助、補、減」<sup>14)</sup>の5つの出資援助がある。

<sup>7)</sup> 同前書、p. 42

<sup>8)</sup> 「中華人民共和国の義務教育法」は、1986年に第6回全国人民代表大会第4次会议で制定された。

<sup>9)</sup> ハスゲレル「中国における少数民族教育の現状」首都大学東京『教育科学研究』第21巻、2006、p. 14

<sup>10)</sup> 中華人民共和国教育部発表の「中国教育の改革と発展状況」（2004）より。

<sup>11)</sup> 中国では高中毕业会考制度と称する。

<sup>12)</sup> 中国では高校入学統一考試制度と称する。

<sup>13)</sup> 前掲書 10)。

<sup>14)</sup> 「奨」は、奨学金である。奨学金の金額は数(何)百元から数(何)千元まで、一部の大学では企業の寄贈としての奨学金がある。そして、一部の大学では師範、農業と林業、民族、体育と航海の専攻を奨励するための奨学金もある。「貸」は国家からの助学贷款である。国家の助学貸金の最高の標準は毎年の6000元である。これは在学の期間中、国家からの助学贷款を受け取るものであるが、卒業後に地方で労働に従事し、一定の年限に達すれば、国家が学生に代わりで助学贷款を返済してくれるものである。「助」は、学生のアルバイト活動で、学生が自分の労働を通じて出資援助を獲得することである。学

## 第2項 少数民族教育システム

少数民族教育は中国の教育制度を基礎としているが<sup>15)</sup>、一般の教育にはない独自性も有している。中国の大百科全書<sup>16)</sup>によれば、少数民族教育とは多民族国家において人口が少ない民族に対して実施している教育であり、中国では少数民族教育は「民族教育」と省略して用いられている。

中国政府は「教育は政治と経済の道具である」と位置付け、少数民族の教育の向上を重視している<sup>17)</sup>。少数民族教育の目的は、政治や経済などの領域で活躍する人材を養成し、少数民族の素質を高め、少数民族と民族地域の発展と繁栄に寄与する人材を育成するというものである。

中華人民共和国憲法（2004年）の第119条では「民族自治地方の自治機関は、自主的に当地方の教育、科学、文化、衛生、体育事業を管理し、民族の文化遺産を保護、整理し、民族文化を発展、繁栄させる」<sup>18)</sup>として少数民族の独自の権利が認められているが、このような立場は中国建国以後の少数民族教育の方針に従ったものである。

中国の少数民族教育は1951年6月の第一次全国民族教育会議と1956年6月の第二次全国民族教育会議によって制度的に保障されることとなった。

1951年6月の第一次全国民族教育会議は、少数民族の教育建設は新中国教育建設の重要な構成要素であり、新中国の建設の前途に関わる重要な問題であるという認識の基に、「新民主主義的教育内容と各民族の発展、進歩にふさわしい教育方法を採用すべきである」<sup>19)</sup>として、民族の独自性に配慮した教育を行うべきであるとする少数民族教育の基本方針を決定した<sup>20)</sup>。1956年6月の第二次全国民族教育会議では、1950年代前期の少数民族の教育の経験を総括して、「全国民族教育事業12年（1956年～1967年）計画綱要」が策定された。この綱要では、少数民族教員の養成、独自のカリキュラムや教授要綱の作成を行うべきであることが全会一致で決定された<sup>21)</sup>。

これらの決定を受けて、中国では各民族の自治機関が自主的に民族教育を発展させるために、独自の教育計画、教育内容、使用言語を定めることが認められるようになった。国家のカリキュラムに規定されるとはいえ、少数民族の教育においては地域や学校の実情に応じて特色のある少数民族教育を行うことが可能になったのである。

多くの少数民族が実施しているのは、漢語だけではなく民族語も教育する二言語教育を実施すること、および民族語の教科書を用いて各教科の教育を行うことである。また、民族学校と民族クラスが設置されることも認められている。

以下では、各段階での少数民族教育の独自性を概観していく。

### 1. 幼児教育

中国では幼児教育に関する法令を定め、全民族を対象にした幼児教育を展開している。

---

業に支障がない学校内のアルバイトを許可するものである。「補」は、経済面で特に困難な学生のための補助金である。「減」は、家庭の経済状況が困難な学生の授業料と雑費を減免するものであり、申請が認められれば授業料と雑費が減免される。

<sup>15)</sup> 前掲書9)、p. 13

<sup>16)</sup> 周光召を主任とした総編集委員会『中国大百科全書』（教育編）、第2版、中国大百科全書出版社、2009

<sup>17)</sup> 前掲書9)、p. 15

<sup>18)</sup> 1982年の中華人民共和国第5回全国人民代表大会第5次会議で決定された「中国人民共和憲法」は、2004年の第10回全国人民代表大会第2次会議で修正された。

<sup>19)</sup> 中華人民共和国教育部は、1951年に北京で第一次全国民族教育会議を行った。

<sup>20)</sup> 崔斌子「中国における朝鮮族教育の四十五年」東京都立大学人文学部『人文学報 教育学』第30巻、1995、p. 250

<sup>21)</sup> 同前書。

これらの主要なものとしては 1981 年の「幼稚園教育要綱」(試行)、1996 年の「幼稚園工作規定」、2001 年の「幼稚園教育指導要綱」(試行)がある<sup>22)</sup>。これらの指針では、幼児期の子ども一人ひとりの成長や、社会への適応が重視されつつあるものの、幼稚園にはそれらを実現するための共通教材や、必修の活動項目は定められていない。そのため各民族の幼稚園では、ほかの段階よりも自由に民族の音楽、民族の踊りなどの伝統的な文化内容を通じて子どもを教育することが可能である。また、他の学校段階の教育施設はほとんどが国立であるなかで幼稚園は民営のものが多いこともあり、カリキュラムには多様性がある。しかし、少数民族の幼稚園と一般幼稚園の主要な差異は、多くの少数民族幼稚園では二言語教育を取り入るなど独自性のある保育を行っていることにある<sup>23)</sup>。

## 2. 義務教育

「義務教育法」の規定によると、満 6 歳になると、中国の国民は性別、民族、人種の区別なく、小学校に入学して義務教育を受けることになっている。少数民族の義務教育は、国(国家教育委員会)のスタンダード、地方のスタンダード、学校のカリキュラム)によって規定されている。一方で民族の実情に応じた教育を行うことが認められており、地域の実情に応じて、少数民族に必要とされる言語をカリキュラムに設置することができる。また、少数民族地域では小学校から民族語と漢語が、通常第二言語の教育が始められる中学校から第三言語(第二言語)<sup>24)</sup>が教育されはじめる。このように、少数民族の生徒は漢族の受けている教育よりも余分の科目を学ぶことによって、民族語と漢語の学習を並行しているのである。

## 3. 後期中等教育

少数民族の学生が受ける教育は、民族語の使用や第二言語の教育のほかは概ね一般と同じである。しかしこれらの違いから、大学入学試験には漢語に加えて民族語の試験があるばかりでなく、一般の試験と同様に外国語科目として、英語、日本語などの第三言語(第二言語)<sup>25)</sup>の試験が行われている。また、試験の点数は実情を勘案して用いられ、時には入学の基準点が引き下げられることがある。大学入学統一試験の点数は、中国の大学が新入生を募集する際の基準となるが、少数民族の受験生は基準点を低くした状態で審査される場合があるのである。例えば、2008 年の「普通大学の学生募集の工作規定」<sup>26)</sup>の第 44 条では、「辺境、山岳地帯、放牧(畜産)地区、少数民族の集居地区の少数民族の受験生は合格点数の基準を最大 20 点まで低くする。」第 47 条では「漢族地区に散居している少数民族の受験生には、漢族の受験生と同等な条件の下で、優先し募集する」と規定されている。このように、同じ少数民族のなかでもどのような環境で教育を受けたかによって試験の合格点が異なることになるが、これは漢族と同様の漢語による教育を受けてきたかどうか判断基準となっているためである。

---

<sup>22)</sup> 前掲書 4)、p. 41

<sup>23)</sup> 前掲書 1)。

<sup>24)</sup> 民族言語を有する少数民族にとっては、英語、日本語のような外国語は第三言語であり(第一言語は民族言語、第二言語は漢語)、民族言語をもたない少数民族にとっては英語、日本語のような外国語は第二言語になる。

<sup>25)</sup> 民族語を有する少数民族の場合は、漢語の試験に加え民族語のほか、第三言語として英語や日本語などの外国語の試験があるが、民族語をもたない少数民族の場合は、漢語の試験のほか第二言語として英語や日本語などの外国語の試験がある。

<sup>26)</sup> 「普通大学の学生募集の工作規定」は、教育部が 2008 年に「中華人民共和国教育法」と「中華人民共和国高等教育法」に基づいて制定した。

## 4. 高等教育

### (1) 民族への配慮

1984年10月1日から実行された「中華人民共和国民族区域自治法」の第71条によると、「国は民族学院を設立し、高等教育機関には民族班<sup>27)</sup>と民族予科班<sup>28)</sup>を設立し、専門的にあるいは主に少数民族の学生を受け入れることとする。また、入学できる学生数を決めて、就職を保障する。高等教育機関と中等専門学校は新生を募集する際に、少数民族の受験生に対して適切な範囲で合格の標準と条件をゆるめて、人口の特に少ない少数民族の受験生に対して特殊な配慮を与える。」とされている。このように中国では各民族の人材を養成するために、少数民族出身の学生の受け入れを拡大し、民族学院のような民族独自の教育機関だけではなく、高等教育機関にも民族班と民族予科班を設立することで、少数民族教育を充実させようとしている。

### (2) 政府による少数民族教育の支援

少数民族の学生は、一般の学生も利用し少数民族の学生にも大きな恩恵を与えている「奨、貸、助、補、減」の5つの出資援助のほかにも、少数民族向けの優遇政策の恩恵を受けている。政府は、2002年の「国务院が改革を深め、民族の教育の発展を加速することに関する決定」において、同等な条件の下で大学に通う少数民族の貧困学生が優先的に国家の学費援助を享受でき、一人ひとりの少数民族の大学生が経済的困難のために学業を中断しないようにすることを確認しており、ここからも通常の支援策よりも少数民族の学生への支援が必要であるとの認識が確認できる。

このほかにも各民族の素質を高め、少数民族出身の各種人材の養成を強調するための成人教育、幹部教育<sup>29)</sup>、職業教育が行われている。

## 第2節 「民族平等」の政策理念

中国政府は、理念的には各民族を平等に扱っており、この「民族平等」の原則は法令上にも明記されている。「中華人民共和国憲法」(1982年)の第4条<sup>30)</sup>によると、「中華人民共和国の各民族はすべて平等である。国家は各少数民族の合法的な権利と利益を保障し、各民族の平等、団結、相互援助の関係を維持、発展させる。いかなる民族の差別と圧迫を禁止し、民族団結を破壊し、民族分裂を引き起こす行為を禁止する」と規定されており、中国の教育はすべての民族に平等に行なわれることが明記されている。また、「中華人民共和国憲法第」(1982年)の第119条には「民族自治地方の自治機関は、自主的に当該地方の教育、科学、文化、衛生体育事業を管理し、民族の文化遺産を保護・管理し、民族文化を発展・繁栄させる」と、少数民族が自主的に民族の教育と文化を発展する権利を認めている。このような立場はその他の公文書にも表れており、たとえば1999年の白書の「中国の少数民族政策及び実践」では、少数民族教育は中国の教育事業の重要な構成部分であり、少数民族教育の発展は、少数民族の素質を高め、少数民族地区の経済、文化の発展において重要な意味をもっているとされている。

<sup>27)</sup> 民族班とは普通大学における少数民族学生のために設けたクラスであり、北京大学、清華大学等の学校が少数民族地区から学生を募集したのが民族班の始まりである。

<sup>28)</sup> 民族予科班とは民族学院における大学へ進学する予科部である。

<sup>29)</sup> 中国政府は少数民族の人材並びに民族幹部を養成するために、中国史上最初の少数民族高等教育である中央民族学院を1951年に創設した。中央民族学院は少数民族に対する高等教育を総合大学のレベルで行うために、1993年に国家教育委員会の承認を経て、中央民族大学へ改組した。

<sup>30)</sup> 「中華人民共和国憲法」は、1982年の中華人民共和国第5回全国人民代表大会第5次会议で決定された。

## 第1項 民族学校の設立

中国政府の「民族平等」の政策理念により、少数民族地区に対する初等教育は大幅に進展した<sup>31)</sup>。1995年から2000年の間に、教育部と財政部は協調して100億元を投入し、少数民族貧困地区の義務教育の普及を図り<sup>32)</sup>、「希望プロジェクト」<sup>33)</sup>などの形で少数民族地区の基礎教育の振興に力を注いでいる。希望プロジェクトは、多数の小学校の建設を後押ししている。例えば、1995年には湖南湘西土家族苗族自治州は136カ所の希望小学校を設立し、数万人の貧困少数民族児童が教育を受けられる環境が整えられている<sup>34)</sup>。このように、初等教育の整備は少数民族においても急速に進んでいる。

また、中国政府は少数民族地区に高等教育機関や民族学院を設立した。従来の少数民族の高等教育機関は、これによって総合大学や普通高等教育機関へ発展、拡大した<sup>35)</sup>。2002年の教育部の調査によると、全国に民族大学と民族学院は12カ所あり、少数民族の在学学生は54.1万人で、全在学学生の5.99%を占めている<sup>36)</sup>。また、民族学院だけではなく、一部の高等教育機関や、中等専門学校、成人高等学校も内部に民族班を設けている。少数民族のために適切な教育的配慮を行うことができるため、民族班は少数民族の学生の学習を支え、少数民族のための学校運営の方法として活用されている<sup>37)</sup>。

## 第2項 民族言語の重視

憲法の「1954年憲法」、「1975年憲法」、「1978年憲法」、「1982年憲法」では、いずれも「言語使用の自由」が明記され、中国においては少数民族の「言語文字（使用）」が基本的権利として保障されている<sup>38)</sup>。現在、中国共産党全国代表会議や全国人民代表会議、中国人民政治協商会議などの重要な会議では、モンゴル、チベット、ウイグル、カザフ、朝鮮、イ、チワンなどの民族言語文字の資料があるだけでなく同時通訳が行われており、人民幣にはモンゴル、ウイグル、チワン、チベット族の文字も併記されている<sup>39)</sup>。また、2000年には言語政策を規定する「中華人民共和国国家通用言語文字法」が定められ<sup>40)</sup>、「各民族の言語文字を平等に共存させ、いかなる形の言語文字差別もあってはならず、各民族は自民族言語文字の学習、使用、発展の自由があり、国家は各民族がお互いに言語文字を学習することを奨励する」と規定されているように、中国政府は多言語使用を推進している。

学校に関しては、1980年代から少数民族言語の科目が学校教育課程に導入され、民族平等の実現のために、教授言語として少数民族言語を用いるようになった<sup>41)</sup>。1992年の「民族教育工作の強化においての問題に関する意見」でも民族言語を尊重する立場が示されている。その原則は「およそ自民族の言語文字を有する民族は、自民族の言語文字を使

<sup>31)</sup> 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育－「民族平等」理念の展開－』東信堂、2001、p. 224

<sup>32)</sup> 「中国的少数民族政策及其实践」－4、各民族の協調的發展の促進、白書

<sup>33)</sup> 1989年に始まった公益事業であり、中国青少年發展基金会在貧困地区の教育を受ける機会を失っている児童を救済することを目的としている。主な活動は貧困地区の教育を受ける機会を失っている児童が学校に戻ることをできるように援助し、希望小学校を設立し、農村の学校運営の条件を改善することである。

<sup>34)</sup> 前掲書 32)

<sup>35)</sup> 前掲書 31)、p. 222

<sup>36)</sup> 前掲書 10)

<sup>37)</sup> 前掲書 32)

<sup>38)</sup> 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開－中国の普通話政策との関わりを中心に－」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第7期第2号、2010、p. 73

<sup>39)</sup> 同前書、p. 74

<sup>40)</sup> 「中華人民共和国国家通用言語文字法」は、2000年の中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会第18次会議で決定され、2001年に実施された。

<sup>41)</sup> 前掲書 31)、p. 223

用して授業を行う」<sup>42)</sup>とあるように民族語や民族の文字を重要視するものである。

### 第3項 少数民族の文化の尊重

中国においては、少数民族は自民族の言語文字を使用、発展させる権利と風習習慣を保持、発展させる権利をもち、国家はこの権利を保護するとされている<sup>43)</sup>。「中華人民共和国民族区域自治法」(1984年)<sup>44)</sup>では、民族自治地方の自治機関は自主的に民族の特色のある文化事業を発展させると規定している。また、1980年の「民族文化を保護することに関する意見」<sup>45)</sup>によると、民族文化芸術遺産の収集整理と民族文芸理論研究を充実させ、少数民族の歌手、芸人を保護し、記録された、あるいは口伝の少数民族文化芸術遺産を保護するべきであるとされている。1984年の「少数民族古籍を守ることにに関する指示」<sup>46)</sup>においては、各地、各関連部門は民族古籍を十分に保護し、人的、物的、経済的支援を行うとされている。また、民族教育は民族文化を伝承する重要な形式である<sup>47)</sup>ため、少数民族のための民族学校を設立し、少数民族文化を伝承させようとしている。

### 第3節 共産主義思想の教育

#### 第1項 「国民教育」としての少数民族教育

これまで、中国政府が少数民族の教育の独自性を認め、独自の文化を保護する姿勢を示してきたことを確認してきた。しかし、中国少数民族教育には少数民族を独自の文化へ向けて教育するだけでなく、「国民国家」へ統合させる側面も存在している<sup>48)</sup>。

1992年の「少数民族の教育を強化することに関するいくつかの意見」では、「少数民族教育は社会主義の学校の運営方向を堅持するべきであり、社会主義の教育の重要な構成部分として、必ず共産党の指導を堅持しなければならず、社会主義現代化の実現に服務するべきである。少数民族の教育は必ずマルクス主義の指導をもとで、少数民族と民族地区の特徴から出発するべきである」<sup>49)</sup>と指摘されている。中国国内の教育に政府が関与することは当然の側面もあるが、少数民族教育が「国民教育」として扱われ、中国の政治的思想による統制を受けていることは確認しておかなければならない。ハス額爾敦(2005)によると、少数民族学校の思想・政治教育は、中国の一般の教育と同様に学校教育において実施されている政治色が濃い教育であり、このような教育はあらゆる学校や学校種別に関わらず実施されているとされる。学校では「マルクス・レーニン主義」「弁証唯物主義」「中国革命史」「民族理論」などが必修科目として設定されており、少数民族の歴史や地理の科目は許可されないか、補助教育材料に留まっている。これは、たとえ民族語によって教授されたとしても、民族の歴史や文化に関する独自の教育が認められず、中国に関する歴史や地理を学ばなければならないことを意味している。このような制約がある限り、独自の教育の展開には限界がある。少数民族教育はあくまで「少数」民族教育であり、実

<sup>42)</sup>「民族教育工作の強化についての問題に関する意見」は1992年に中華人民共和國教育委員会、中華人民共和國民族事務委員会より発表された。

<sup>43)</sup>「中国的少数民族政策及其实践」—5、少数民族の文化の保護、発展、白書

<sup>44)</sup>「中華人民共和國民族区域自治法」は、1984年に第6回全国人民代表第2次會議で決定された。

<sup>45)</sup>「民族文化を保護することに関する意見」(关于做好当前民族文化工作的意见)は、1980年に中華人民共和國文化部、中華人民共和國国家民族事務委員会で制定された。

<sup>46)</sup>「少数民族古籍を守ることにに関する指示」(关于做好当前民族文化工作的意见)は、1984年に中華人民共和國国家民族事務委員会で制定された。

<sup>47)</sup>謝君君「海南の少数民族教育の発展と文化伝承」『教育評論』03期、2011、p. 109

<sup>48)</sup>ハス額爾敦「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題：内モンゴル自治区の民族教育を中心に」名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻『多元文化』第5巻、2005、p. 268

<sup>49)</sup>「少数民族の教育を強化することに関するいくつかの意見」は、1992年に国家教育委員会と国家民族事務委員会で配布された。

際には中国の政治思想に関する教育と比べて十分展開されているとはいえないのである。

## 第2項 学校での宗教への否定

中国は多民族国家である同時に多宗教国家であり、少数民族の歴史や文化には独自の宗教が関係していることも少なくない<sup>50)</sup>。宗教は人々の生活に影響を与えるため、宗教は民族の生活と密接に関連してしばしばその一部となっている<sup>51)</sup>。そのため、民族の教育を十全に行おうとする場合には宗教の教育が不可欠になる場合もある。したがって、少数民族の教育にも本来なら宗教を取り入れる必要のある場面も存在するであろう。しかし、実際には学校において宗教教育は認められていない。

少数民族保護に関しては宗教についても及んでおり、1984年制定された「中華人民共和国民族区域自治法」(2001)<sup>52)</sup>の第11条には「いかなる人も宗教を利用して社会の秩序を破壊し、国民の身体健康を損害し、国家の教育制度の活動を妨害してはいけない」と制限されているものの、「民族自治の地方の自治機関は各民族公民が宗教の信仰の自由を有することを保障する。いかなる国家機関、社会团体と個人は公民に宗教を信奉するように、あるいは宗教を信奉しないように強制してはならず、宗教を信奉する公民と宗教を信奉しない公民を差別してはいけない。国家は正常な宗教の活動を保護する」とされており、信仰の自由は保障されている。しかし、実際の学校教育に関する規定においては、宗教は否定の対象になっているのである。2004年の「マルクス・無神論研究と教育工作の宣伝に関する通知」<sup>53)</sup>によると、「各段階および各種の学校においては、マルクス主義無神論を宣伝する機関として…国民教育は宗教と分離することを原則にし、マルクス主義無神論を政治理論課、思想品德課と専門課程に関する教学要綱に入れ、教育内容と教育目標の達成を保障する。…西部と辺境地区の党学校、行政学院は多民族多宗教の実際状況に応じて、地区の幹部にマルクス主義の宣伝教育の比重を拡大する」と規定し、マルクス主義教育には力を入れる一方で、宗教教育は教育と宗教の分離という建前のもとに否定されている。

## 第4節 二言語教育

二言語教育は、中国の少数民族教育の主要な特徴である<sup>54)</sup>。中国の法律や規定のなかでは、二言語教育は少数民族学校において民族語と漢語を同時に教えるという意味で使用されている。中国では、日本で第二言語と呼ばれるような英語や日本語の教育は外国語教育と呼ばれる。すなわち、中国の二言語教育とは、多民族国家あるいは地域で実施している少数民族独自の言語を学ぶ教育を示すものである<sup>55)</sup>。

## 第1項 重視されている二言語教育

これまで確認してきたように、中国の少数民族教育において民族語の教育は極めて重要な位置を占めている。

1984年の「民族区域自治法」と1986年の「義務教育法」では「主に少数民族の学生を募集する学校あるいはクラスでは、民族言語・文字を用いて教育することができると同時

<sup>50)</sup> 馬効義、丁剛「宗教の民族性と少数民族の風習習慣の尊重」『前線雑誌』第12期、2002、p. 82

<sup>51)</sup> 同前書。

<sup>52)</sup> 1984年に制定された「中華人民共和国民族区域自治法」は、2001年の第9回全国人民代表大会常務委員会第20次会議で修正された。

<sup>53)</sup> 「マルクス・無神論研究と教育工作の宣伝に関する通知」は、2004年の中央組織部、中央宣伝部、中央文明委、中央党校教育部、中国社会科学部から発表された。

<sup>54)</sup> 趙貴花「グローバル化時代の少数民族教育の実態とその変容—中国朝鮮族の事例—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』47、2008、p. 177

<sup>55)</sup> 前掲書38)、p. 75

に、漢語・漢語文字でも教育を行う。民族文字のない民族は、直接に漢語で教育を行い、民族言語を漢語学習の補助として使う」<sup>56)</sup>と規定されている。また、1980年の「民族教育工作の強化に関する意見」<sup>57)</sup>では、「あらゆる民族言語・文字を有する民族は、民族の言語文字を使用して授業を行い、民族の言語文字を習得し、同時に漢語・漢語文字も学ばなければならない」として、少数民族に対しての二言語教育が奨励され、小学校から漢語の学習が義務付けられている。これらの規定は各省の二言語教育政策に反映されている。例えば青海省は「民族中小学校のカリキュラムの試行案」で「少数民族学校は必ず民族言語・文字を主として教育を行う原則を守るべきである。学生はまず民族言語と文字を把握したうえで漢語を学ぶべきであり、中学校を卒業する際は民族語と漢語が併用できるレベルに達する」<sup>58)</sup>と規定し、民族語の教育が漢語の教育に優先することを表明しながらも漢語の学習を義務化している<sup>59)</sup>。また、「チベット自治区の藏語を学習・使用・発展することに関する規定の実施」<sup>60)</sup>では「藏語を主として、漢語と藏語を併用し、藏族学生が中学校卒業する際は民族語と漢語が併用できるレベルに達するべきであり、条件が整えれば外国語の勉強も重視するべきである」と規定している<sup>61)</sup>。

これらの例からも明らかなように、各少数民族が民族語を主要な言語として用い、そのための教育を受けるという権利は広く認められている。一方で、中国国民として必要な共通語としての漢語の習得も意図されていることも明確である。

## 第2項 少数民族言語の現状

二言語教育はすべての少数民族が実施しているわけでない。55の少数民族のうち、約30の民族しか二言語教育を実施しておらず、残りの25の少数民族は民族言語の教育を実施していない<sup>62)</sup>。これは民族言語・文字が現存しているかどうかに関係している<sup>63)</sup>。民族語の教育を行っている30の民族は、主にモンゴル自治区、新疆ウイグル自治区、チベット自治区、青海省、吉林省延边朝鮮族自治州、四川省、貴州省、雲南省、湖南省、広西チワン（壮）族自治区などに分布している<sup>64)</sup>。また、二言語教育を採用している場合でも、共通言語を教授言語としている少数民族集団もあれば、民族言語を教授言語としている少数民族集団もある<sup>65)</sup>。

「中華人民共和国民族区域自治法」（1984）第36条には、「民族自治区域の自治機関は、国家の教育方針及び法律に基づき、その区域の教育方針、学校の設立、学制、学校運営の方式、講義内容、教授言語、入学者選抜の方法を決定する」<sup>66)</sup>と定められている。すなわち、教授言語を民族語にするか漢語にするかは民族自治区域の実情によって独自に決め

<sup>56)</sup> 戴慶厦、董艶「中国の少数民族二言語教育の歴史（上）」『民族教育研究』1996、p. 54

<sup>57)</sup> 「民族教育工作の強化に関する意見」は、1980年10月に中華人民共和国教育部と国家民族事務委員会で発表された。

<sup>58)</sup> 1984年に青海省は「民族中小学校のカリキュラムの試行案」を発表した。

<sup>59)</sup> 前掲書 56)。

<sup>60)</sup> 「チベット自治区の藏語を学習・使用・発展することに関する規定の実施」は1988年にチベット自治区が発表した。

<sup>61)</sup> 前掲書 56)、p. 55

<sup>62)</sup> 張瓊華「中国における二言語教育と少数民族集団の選択」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻、2001、p. 211

<sup>63)</sup> 前掲書 54)、p. 222

<sup>64)</sup> 四川省では、チベット族と彝族が二言語教育を実施しており、雲南省では、タイ族、ハニー族、ラフ族などの少数民族集団が二言語教育を採用しており、貴州省では、プイ族、トン族、イ族などの少数民族集団が二言語教育を実施している。多くの地域では、小中学校だけ二言語教育を実施しているのではなく、小学校から大学まで一貫して二言語教育が行われている。

<sup>65)</sup> 前掲書 62)、p. 212

<sup>66)</sup> 前掲書 44)。



ることができるのである。しかし、1990年代に出された「国务院の国家民族委员会の少数民族言語文字工作改良に関する報告の実施の通知」（1991年）、「少数民族の言語文字工作の強化に関する報告」（1991年）、「全国少数民族教育発展・改革指導綱要」（1992年）などでは、少数民族言語を教授言語とする学校において、二言語教育を強化するべきであると記されている<sup>67)</sup>。これまで確認した例からも明らかなように、二言語教育自体は推進されるものである。しかし、漢語は中国国内では相対的に優位であり、二言語教育体制のなかでも、一部の地方では民族語教育が衰退し、民族語の軽視が生じているという報告も存在する<sup>68)</sup>。

### 第3項 二言語教育の種類

道布（1998）の研究では、中国における民族学校を4タイプに分類している。第1は、すべて漢語を用いて授業を行う学校、第2は、漢語を主とし、民族語を補助的に使用する学校、第3は、漢語を主として民族語を教科として学習する学校、第4は、民族語が主で漢語を教科として学ぶ学校である。また、張瓊華（2001）も、民族語で教えるもの、漢語で教えるもの、民族語と漢語をどちらも用いるもの、の3タイプに分けている。

漢語を教授言語にするか、民族語を教授言語にするかは、歴史的にその地域が科挙圏<sup>69)</sup>であったかどうかによって左右されている<sup>70)</sup>。歴史的にその地域が科挙圏であった少数民族集団<sup>71)</sup>は漢語を教授言語とし、歴史的にその地域が科挙圏ではない少数民族集団<sup>72)</sup>は民族言語を教授言語としている場合が多いとされている。

### 第4項 教員の二言語能力

二言語教育が実施されているため、少数民族学校では教員の二言語能力が重視されている。曹彦麗（2011）は、質の高い二言語教育を行えるかどうかは、二言語に精通した教員の存在によって決まると指摘している。2002年の「国务院の民族教育発展を進めることに関する決定」では、「二言語教員の養成に重点をおき、試験に合格した『双語型』教員チームを作る」<sup>73)</sup>として、二言語を使用できる教員の育成を重視している。しかし、二言語使用として重視されるのは、漢語使用の能力である。中国政府は、現在行われている学校での漢語教育以上に、徹底して教員が漢語を教えることを要求しはじめているのである。このような方針によって、少数民族の漢語教育には漢語教育の質の保障が求められるようになった<sup>74)</sup>。

このような背景から、少数民族の中国語の教員の漢語能力を高め、民族地区の漢語の普及を加速し、少数民族地区の漢語の教育の質の高めることを促進するために、教育部言語文字応用管理司<sup>75)</sup>によって、少数民族漢語科目教員の漢語訓練プロジェクトが開始され

<sup>67)</sup> 前掲書 55)。

<sup>68)</sup> 戴慶厦、関辛秋「中国の少数民族の二言語教育の現状及び発展趨勢」『黑龙江民族丛刊(哈尔滨)』第1期、1998、p. 115

<sup>69)</sup> 近代以前の中国において、漢族が少数民族の支配構造の一つとして科挙官僚による支配があり、科挙官僚による支配は1905年に廃止された。

<sup>70)</sup> 前掲書 54)、p. 223

<sup>71)</sup> 趙貴花（2008）によると、科挙官僚の「巡礼圏」に包摂された少数民族集団としては西南、西方民族である。

<sup>72)</sup> 趙貴花（2008）によると、科挙官僚の「巡礼圏」に包摂されなかった少数民族集団としては、モンゴル、チベット、新疆の少数民族集団と朝鮮族である。

<sup>73)</sup> 前掲書 67)。

<sup>74)</sup> 同前書。

<sup>75)</sup> 教育部言語文字応用管理司の職務は言語と文字工作の方針、政策と中・長期的な計画を定めること；言語と文字の規範化の作業を組織・実施すること；言語と文字の応用の状況を監督・検査すること；《漢

ている。

## 第5節 まとめ

少数民族教育は中国教育の教育システムを基盤としているが、少数民族の独自性を認める教育政策によって一般の教育と異なる部分もある。中国の少数民族教育政策は、すべての民族が平等であることを前提にしている。しかし、実際の教育においては民族の文化が十分に教えられないなどの課題も存在している。少数民族教育において一貫して重視されているのは民族言語の教育である。一方で少数民族は中国での共通語である漢語も学ばなければならない。とりわけ近年では漢語教育の質の向上が少数民族についても目指されるようになってきている。このような点に中国の少数民族教育における二言語教育の特色が存在している。

本研究で焦点を当てる中国朝鮮族は、朝鮮半島から移住した民族である。第2章では中国朝鮮族の幼稚園での少数民族教育を明らかにする前段階として、朝鮮族とその教育について概観していく。

## 引用・参考文献

### 日本語文献

- 1) 浅野房雄、中山千章、足立広美「中国の幼児教育・保育」つくば国際短期大学『紀要』第35巻、2007、pp. 23-29
- 2) 崔斌子「中国における朝鮮族教育の四十五年」東京都立大学人文学部『人文学報 教育学』30、1995、pp. 247-281
- 3) 曹能秀、無藤隆「中国における幼児教育の現状と課題」『お茶の水女子大学こども発達教育研究センター紀要』第3巻、2006、pp. 39-44
- 4) ハスゲレル「中国における少数民族教育の現状」首都大学東京『教育科学研究』第21巻、2006、pp. 11-18
- 5) 哈斯額爾敦「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題－内モンゴル自治区の民族教育を中心に－」名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻『多元文化』第5巻、2005年、pp. 265-280
- 6) 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開－中国の普通話政策との関わりを中心に－」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第7期第2号、2010、pp. 71-84
- 7) 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育－「民族平等」理念の展開－』東信堂、2001
- 8) 趙貴花「グローバル化時代の少数民族教育の実態とその変容－中国朝鮮族の事例－」『東京大学大学院教育学研究科紀要』47、2008、pp. 177-187
- 9) 張瓊華「中国における二言語教育と少数民族集団の選択」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻、2001、pp. 211-224

### 中国語文献

- 1) 「中華人民共和国の義務教育法」第6回全国人民代表大会第4次会議、1986年(制定)
- 2) 「中国教育の改革と発展状況」中華人民共和国教育部、2004
- 3) 『中国大百科全書』(教育編)、第2版、中国大百科全書出版社、周光召を主任とした

---

語ピンイン》を組織・推進し、指導して漢語を広める工作与共通語の教員の育成訓練の工作进行を促めること；主催国家の言語と文字工作委员会の具体的な作業を主催することである。

総編集委員会、2009

- 4) 「普通大学の学生募集の工作規定」教育部、2008
- 5) 「中華人民共和国憲法」中華人民共和國第5回全國人民代表大會第5次會議、1982  
「中國人民共和國憲法」第10回全國人民代表大會第2次會議（修正）、2004
- 6) 「中國的少數民族政策及其實踐」－4、各民族の協調的發展の促進、白書  
「中國的少數民族政策及其實踐」－5、少數民族の文化の保護、發展、白書
- 7) 「中華人民共和國國家通用言語文字法」2000年の中華人民共和國全國人民代表大會常務委員會第18次會議（決定）、2001年（實施）
- 8) 「民族文化を保護することに関する意見」（关于做好当前民族文化工作的意见）中華人民共和國文化部、中華人民共和國國家民族事務委員會、1980
- 9) 「少數民族古籍を守ることに関する指示」（关于做好当前民族文化工作的意见）中華人民共和國國家民族事務委員會、1984
- 10) 「中華人民共和國民族區域自治法」第6回全國人民代表第2次會議、1984年（決定）  
「中華人民共和國民族區域自治法」第9回全國人民代表大會常務委員會第20次會議、2001年（修正）
- 11) 「マルクス・無神論研究と教育工作の宣伝に関する通知」、中央組織部、中央宣傳部、中央文明委、中央黨校教育部、中國社會科學部、2004
- 12) 「2005年少數民族漢語教員の漢語訓練班的成果堅著（2005年少數民族漢語教師普通話培訓班成果顯著）」教育部言語文字應用管理司、2005年10月8日
- 13) 「幼稚園教育指導綱要」中華人民共和國教育部、1999年（制定）2001年（實施）
- 14) 「民族教育工作の強化においての問題に関する意見」中華人民共和國教育委員會、中華人民共和國民族事務委員會、1992
- 15) 「少數民族の教育を強化することに関するいくつかの意見」國家教育委員會と國家民族事務委員會、1992
- 16) 「民族教育工作の強化に関する意見」中華人民共和國教育部、國家民族事務委員會、1980
- 17) 「民族中小學校のカリキュラムの試行案」青海省、1984
- 18) 「チベット自治區の藏語を學習・使用・發展することに関する規定の實施」チベット自治區、1988
- 19) 戴慶厦、董艷「中國の少數民族二言語教育の歴史（上）」『民族教育研究』1996、pp. 50-57
- 20) 戴慶厦、関辛秋「中國の少數民族の二言語教育の現状及び發展趨勢」『黑龍江民族叢書（ハルビン）』第1期、1998、pp. 112-115
- 21) 謝君君「海南の少數民族教育の發展と文化傳承」『教育評論』03期、2011、pp. 108-110
- 22) 馬効義、丁剛「宗教の民族性と少數民族の風習習慣の尊重」『前線雜誌』第12期、2002、pp. 82-84
- 23) 道布「中國的言語政策と言語計画」『民族研究』第6期、1998、pp. 42-52

## 第2章 中国朝鮮族の教育

### 第1節 中国朝鮮族の教育の歴史

中国朝鮮族は中国の55の少数民族の一つであるが、多くの少数民族とは異なり、朝鮮族は土着の民族ではなく、朝鮮半島から移住定着した民族である。中国への移住は古くは明末清初から始まり、19世紀後半に本格的に移住が進んだ。現在では、中国朝鮮族の教育は中国の教育の一部分であるが、教育の発展には独自の歴史的背景も関係している。

中国朝鮮族の教育は以下の6つの時期に分けることができる。

#### 第1項 中国建国前の朝鮮族の教育

19世紀半ばに、延辺及び東北に移住してきた朝鮮族は、主に「生活難」で困窮していた農民、商人、労働者たちであった。しかし、朝鮮族の教育において重要な役割を果たしたのは、日本の朝鮮半島支配を避けるため移住してきた民族主義思想をもつ独立運動家であった。

1910年8月、日本は強圧的に韓日合併条約を締結し、朝鮮は日本の植民地下に入った。併合と同時に各段階の学校長は日本人になり、朝鮮人の子どもには教育を通じて同化が強要された<sup>1)</sup>。そして、国史と朝鮮語授業を撤廃し、学校の名前を日本式に直して、普通学校の子どもの「国語常用」という標語を掲げて日本語使用を強要するなど皇国臣民化運動に力をいれた。このような日本の朝鮮半島支配を避けるため移住してきた民族主義思想をもつ独立運動家は、貧しい生活の中でも、私塾（クルバン）、書堂<sup>2)</sup>を建て、子どもに朝鮮族の文化を教えた。小川（2001）によると、朝鮮族の民族性は朝鮮族の教育熱に表れており、民族の教育や民族の学校設置によって、朝鮮族の子どもに民族意識を培ってきたとされている。延辺における朝鮮人による最初の朝鮮学校は李相尙が1906年に龍井に設立した「瑞甸書塾」であった。その後、延吉市の臥竜洞に昌東義塾（1907年）、延吉市の小営子に光成義塾（1908年）など著名な学校が建てられ、1926年の時点で学校数



<sup>1)</sup> キムハンジョン（2009）は、朝鮮人へ日本人への同化の強要は、教科書制度と教科書の内容を通じて行われたと指摘している。朝鮮総督府の教科書政策は全般的に統制が中心であった。特に教科書内容については、国家や社会観に及ぼす影響を考え、初等学校の教科書は総督府が直接に編纂し「国政制」を維持した。中学校の教科書は基本的に検定制だったが、必要な場合、朝鮮総督府が一部教科書を直接編纂し、あるいは、朝鮮総督府の認可を受けた教科書のみを用いるようにした。朝鮮総督府は次第に日本で用いられる教科書を朝鮮で用いることを強要した。

<sup>2)</sup> 漢文などを教える施設で、同じ意味をもつ場所としては、堂、私塾、書塾、書屋、書齋、學堂、學房がある。

207 校、学生数 8,987 人に成長した<sup>3)</sup>。これらの私立学校は、民族主義的、反日的であるため、朝鮮語が教授言語であった<sup>4)</sup>。

## 第 2 項 日本占領期の朝鮮族の教育

1931 年の満州事変によって朝鮮族の教育権は日本の設立した傀儡国家である満州国に引き渡され、「皇民化」教育が行われることになった<sup>5)</sup>。朝鮮人が運営してきた多くの民族学校は焼き払われ、取り締まりを受け、民族主義的な思想をもっているすべての教員と学生たちは残酷に弾圧された。また、1937 年の日本の中国への全面侵略戦争によって、学校の教育的機能が停止され、朝鮮族学校は軍事兵営化された<sup>6)</sup>。朝鮮人学校は一律に朝鮮総督府管轄下の普通学校となったが、このことにより中華民国政府によって学校での使用が認められていた朝鮮語が延辺地区の学校から消え、朝鮮人学校の教授言語は日本語になった<sup>7)</sup>。さらに、「満州国」の国民になった朝鮮人に「修身」、「建国精神」、「日本史」などを強要し、小学校高学年では、日本語の使用が強要された。

このような教育に抵抗するために、朝鮮族は民族独自の教材を編纂し、夜間学校を建てて朝鮮語で教育を行ったほか、抗日歌を作って歌うなどの方法で民族の歴史や文化と民族独自の思想を広めた<sup>8)</sup>。

## 第 3 項 中国建国の朝鮮族の教育

1945 年の解放後、教育権が朝鮮族の手に戻ると、民族学校が設立され、民族教育は復興し、積極的に発展させられることとなった。統計によれば、朝鮮族の小学校は 1944 年に 557 校、学生数は 96,700 余名であったが、1946 年には学校数は 16%増加し、学生数は 34%増加しており、そのうち 74.8%を朝鮮族が占めていた。朝鮮族の中学校は 1944 年に 18 校、学生数は 6,700 余名であったが、1946 年には学校数は 72%増加し、学生数は 105%増加しており、92%が朝鮮族であった<sup>9)</sup>。この時期の朝鮮族の人口数は 110 万人程度であった<sup>10)</sup>。そして、民族教育をより強化するため、朝鮮族が集住している延辺、吉林、通化、開原と牡丹江などの地区では高等学校を設置することで<sup>11)</sup>、民族教育のレベルを高めようとした。さらに、1949 年 3 月には朝鮮族の教育をより発展させ、朝鮮族の共産党幹部と知識人を養成するために朝鮮族の大学である延辺大学（延吉市<sup>12)</sup>）が設立された<sup>13)</sup>。こうして、小学校から大学までの朝鮮族のための学校教育制度が完成した。

## 第 4 項 朝鮮族教育の発展期

1951 年の第一次全国民族教育会議と 1956 年の第二次全国民族教育会議では民族教育の

<sup>3)</sup> 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育－「民族平等」理念の展開－』東信堂、2001、p. 148

<sup>4)</sup> 同前書。

<sup>5)</sup> 魯在化 解説・訳「資料中国延辺朝鮮族教育史年表」東京学芸大学『国際教育研究』9、1989、p. 22

<sup>6)</sup> 同前書。

<sup>7)</sup> 前掲書 3)、p. 150

<sup>8)</sup> バクテジュ「朝鮮族教育の歴史の特徴と基本経験」『延辺大学学报：社科版』2003、p. 46

<sup>9)</sup> 崔斌子「中国における朝鮮族教育の四十五年」東京都立大学人文学部『人文学報 教育学』30、1995、p. 249

権寧俊「朝鮮人の「民族教育」から朝鮮族の「少数民族教育」へ」『文教大学国際学部紀要』第 15 巻 2 号、2005、p. 180

<sup>10)</sup> 1940 年代の朝鮮族の人口数に関する統計がなかったため、1953 年に行った中国第一次全国人口調査表にある朝鮮族の人口数 112 万 405 人を参考にした。

<sup>11)</sup> 前掲書 8)。

<sup>12)</sup> 延吉市は、延辺朝鮮族自治州の州府である。

<sup>13)</sup> 前掲書 5)、p. 23

方針が定められ、諸民族のための特別政策と措置が決定された。中国政府は普通教育を推進し、民族教育の場で文盲一掃事業を展開し、バクテジュ（2003）によると、朝鮮族の間でもこの時期に小学校、中学校の教育を受けることが一般的になった。また、延辺大学のほかにも高等学校及び成人教育などの高等教育も発展し、民族語文の教材が整い、民族教育のための教員養成も進むなど社会全体で民族教育を行う体制が完成した<sup>14)</sup>。

この時期、朝鮮族が集住している延辺朝鮮族地区の教育は、全国内の少数民族教育の中で「六つの最初」を実現した。「六つの最初」とは、少数民族のなかで最初に、1) 小学校教を整備（1952 年）したこと、2) 中学校教育を整備（1958 年）したこと、3) 青年たちへの文盲一掃事業を展開（1958 年 3 月 14 日延辺州政府からの報告）したこと、4) 盲聾哑学校を設立（1958 年）したこと、5) 三つの民族大学、民族学院を設立（延辺大学、延辺医学院、延辺農学院）したこと、6) 農民大学（延吉県（現延吉市）東盛卿黎明大学）を設立（1958 年）<sup>15)</sup> したこと、の 6 つを指している。

## 第 5 項 朝鮮族教育の後退期

朝鮮族の教育は 1950 年代後期からの「大躍進運動」（1958～1960）と「文化大革命」（1966 年～1976 年）によって大きく後退した。

例えば、延辺大学は「民族分裂主義を実施する拠点」、「裏切り者と修正主義人材を養成する大学」と批判され、学生定員に占める朝鮮族の比率を削減させられた<sup>16)</sup>。その結果、1959 年からは朝鮮族以外の民族の学生を多数入学させるようになり<sup>17)</sup>、「文化大革命」期には延辺大学の学生募集において漢族とその他民族との民族比が逆転し、朝鮮族の学生数は全学生数の 20～30% にまで減少した<sup>18)</sup>。従来朝鮮族を主要な教育対象としていた延辺大学では、教授言語として漢語を用いなければならなくなり、朝鮮語科以外はすべて漢語で教授することとなった。また、朝鮮文学関係や朝鮮史関係の課程（「中国朝鮮族歴史」や「朝鮮古代史」など）は廃止された<sup>19)</sup>。

また、朝鮮族の教育機関に対する批判は幼稚園、小学校、中学校などにも広まった。1976 年の統計によれば、12.5% の朝鮮族の小学生と 25% の朝鮮族の中学生が漢族の学校に入ることになった<sup>20)</sup>。幼稚園も修正主義的であると批判され閉鎖された。さらに、多くの民族教育幹部や教員が批判の対象となり、延辺大学の 70% の教授、準教授と 60% の講師が農村に強制的に移住することになった<sup>21)</sup>。

こうして「大躍進運動」から「文化大革命」の時期には、従来の民族学校に配慮された政策が撤回され、発展していた朝鮮族の教育は大きな後退を余議無くされた。

## 第 6 項 朝鮮族教育の再生・発展期

中国政府は「文化大革命」の過ちを見直し、1981 年に第三次全国民族教育会議では、教育における民族の独自性を再び認め、少数民族語文教育を許可し、少数民族語で書かれた教材を編纂することを推進した。延辺大学の改革において、学生の民族比を朝鮮族 7 : 漢族 3 に戻し、朝鮮文学や朝鮮史などの学科も復活した<sup>22)</sup>。そして、「文化大革命」期も

<sup>14)</sup> 前掲書 8)。

<sup>15)</sup> 同前書。

<sup>16)</sup> 申英美「中国朝鮮族教育の問題に関する研究」『中央民族大学』2006、p. 20

<sup>17)</sup> 前掲書 7)、p. 103

<sup>18)</sup> 前掲書 16)。

<sup>19)</sup> 同前書。

<sup>20)</sup> 同前書、p. 21

<sup>21)</sup> 同前書。

<sup>22)</sup> 前掲書 17)。

停止されなかった政治、朝鮮語文、漢語文、数学、物理、化学に加え、歴史、漢語、体育、地理が加わり、1979年に日本語、1980年に英語が新設されるなど<sup>23)</sup>、延辺大学は総合大学として発展した。また、1985年には延辺朝鮮族自治条例が制定された。その内容としては、朝鮮族学校の学制、課程及び教学大綱を制定すること、州内の大学及び中等専科学校の朝鮮族学生は民族語で受験でき、「語文」の受験の中に「漢語文」の受験も含まれることなどがある。そして、1985年には、「中国政府による教育体制の改革についての決定」の下で、朝鮮族の教育も全面的な体制改革が始められた。1996年には、21世紀に国家が重点的に管理する100の大学として延辺大学<sup>24)</sup>が「211工程」<sup>25)</sup>学校となるなど、朝鮮族の教育は評価されている。

また、中国政府は少数民族学校における二言語教育も推進した。二言語教育の形態は、少数民族言語を中心とするもの、漢語を中心とするもの、両言語を半分ずつ用いるものなどがあるが、延辺朝鮮族自治州の場合は、小学校から「漢語文」の授業以外は朝鮮語で授業を行っている<sup>26)</sup>。

## 第2節 朝鮮族の教育と韓国・北朝鮮・中国

中国朝鮮族の教育は、中国朝鮮族のルーツにあたる朝鮮半島の国(韓国、朝鮮民主主義人民共和国)から大きな影響を受けている。しかし、中国国内において漢語学習の必要性が強調されつつある一方で、朝鮮語に対する関心意識が薄くなりつつあるという指摘も存在している。

### 第1項 朝鮮族と韓国人

朝鮮族のルーツにあたる朝鮮半島の国の一つである韓国の経済は目覚ましい発展を遂げており、中国と韓国は1992年に国交正常化を果たした。1992年以降、朝鮮族は同じ民族である韓国との交流を通じて、民族の文化に関心を示すようになってきた。また、中国全体としても朝鮮族の間でも、韓国の経済の成長に伴って、韓国ブームが生じている。

金成子(2010)の散住地区のある朝鮮族の保護者へのインタビューでは、保護者は子どもを韓国へ留学させ、子どもが留学中、同一民族の歴史や文化、伝統などを身をもって体験することによって子どもの民族意識をより強くさせたいという意識を示している。また、中国国内においては違法行為ではあるが、韓国の文化にはテレビなどを通じて親しむこともできる。王紀芒(2008)の調査によると「よく見ているドラマは中国のものですか、それとも韓国のものですか」という質問に韓国のドラマだと答えた人の割合が41.3%にのびたのに対して、中国のドラマだと答えた人の割合は27.5%であった。これは、中国朝鮮族と韓国は言語、文化上類似が関連している<sup>27)</sup>からであると分析されている。

しかし、王紀芒(2008)の研究では、韓国人との頻繁な交流のなかで、特に韓国へ出稼ぎに行った人たちは「自分は韓国人にはなれない、やはり自分は中国人である」という認

<sup>23)</sup> 同前書、p. 104

<sup>24)</sup> 延辺大学は延辺医学院、延辺農学院、縁辺師範高等専門学校、吉林芸術学院延辺分院、延辺科技大学五つの学校が合併した総合大学である。

<sup>25)</sup> 211工程とは、中国教育部が21世紀に向けて100校の大学を選び、そこに重点的に投資をしていこうというプロジェクトのことである。指定された学校は「211工程重点大学」と呼ばれ、それまでの「国家重点大学」に替わるものとして1995年に定められた。

<sup>26)</sup> 詳しくは第2章の第3節に述べる

<sup>27)</sup> 中国の朝鮮族と韓国・朝鮮人民共和国の人の使っている文字は同じであるが、言葉のアクセントには異なっている。ちなみに同じ韓国の中でも地方によって方言が存在しており、中国の朝鮮族の間にも地方によって言葉使いが異なっている。文化においても、中国と韓国という国の違いによって同じ民族でも多少異なっている部分がある。

識がより強まっているとも指摘されている。中国朝鮮族にとって、韓国は出稼ぎの場所であり、居住地ではないのであるというのである<sup>28)</sup>。それは、韓国へ出稼ぎに行った朝鮮族は、中国朝鮮族と韓国人との間に「言語上の微妙な差異、思考方式の大きな差異、経済取引方式の差異」があることを知り、異文化間接触とそれによる衝撃や摩擦のなかで、同じ民族であっても文化的に異質な他者として韓国人をとらえるためであるとされている。

このように、中国朝鮮族の韓国へのまなざしは自民族の文化と発展という二つの軸の重みづけによって容易に変化する。韓国との接触は、朝鮮族に自民族の文化に対する注目を引き起こす一方で、韓国人を文化的に異なる他者としてとらえる契機ともなっているようである。

## 第2項 朝鮮族と朝鮮民主主義人民共和国

朝鮮民主主義人民共和国人は韓国人と同じく中国朝鮮族と同じ民族である。しかし、韓国への感情が憧れという言葉で表現できるとすれば、朝鮮人民共和国(以下北朝鮮と略記)への感情は同情に近い。王紀芒(2008)の研究では、朝鮮族と北朝鮮の人々は同じ民族であり、かつては同じ民族共同体の構成員であったため、現在北朝鮮の人々が苦しい生活を送っていることに同情の感情をもち、経済面で援助したいと思っているとされる。しかし、それを積極的に推進するほどの熱意はないということもまた指摘されている。

中国朝鮮族の学校の朝鮮語科目の教科書は、東北朝鮮民族教育出版社出版の『朝鮮語文』である。朝鮮族の学生と教師は『朝鮮語文』の教科書は古く窮屈で、実用的ではないと考えている。趙貴花(2008)によれば、その原因は韓国の映画やドラマそして韓国の本などが中国に入ることによって韓国の小説や雑誌なども容易に手に入れることができるようになった結果、これまで中国で使用してきた朝鮮語が北朝鮮の言葉に近いものであることに朝鮮族の生徒が気付いてきたためであるとされている。韓国の経済成長とともに韓国に対する肯定的な感情は強くなり、現在の朝鮮族の生徒は言語においても韓国語に肯定的なのである。このような立場からは、北朝鮮の人々と同じ民族であるかどうか以上に、経済的に発達が遅れていることが、朝鮮族の人々が北朝鮮に魅力を感じていない原因となっていることがうかがえる。

## 第3項 漢語教育の重視

改革開放以降、中国の公用語である漢語教育の重要性が高まり、多くの保護者は学校教育において、漢語中心の社会に適応させるために漢語を教授言語とした教育を行うべきだと考えるようになっていく<sup>29)</sup>。散住地区の朝鮮族の学校では、朝鮮語の授業は放課後に行われ、漢語やほかの科目に比べて朝鮮語の学習時間は極めて少なくなっている<sup>30)</sup>。また、散住地区の場合には、授業以外では全く朝鮮語が使用されず、日常会話は「漢語」となっている<sup>31)</sup>。朝鮮族の集住地区である延辺では、現在は朝鮮語が主要な教授言語であるが、朝鮮族教育条例などを改正して、一部の教科は漢語で教えるなど、朝鮮語と漢語を同程度の割合で教授言語として採用する形の二言語教育改革が進めようとする動きがみられる<sup>32)</sup>。また漢語教育科目である「漢語文」を「漢語」という科目名に改め、総合的

<sup>28)</sup> 王紀芒「中国朝鮮族の民族アイデンティティと国家アイデンティティ」『民族学院学報：哲学社会科学版』第26巻第4期、2008、p.23

<sup>29)</sup> 金成子「中国都市部における民族教育に関する一考察：北京に住む朝鮮族を事例として」『アジア社会文化研究』第11期、2010、p.48

<sup>30)</sup> 同前書、p.46

<sup>31)</sup> 同前書、p.48

<sup>32)</sup> 出羽孝行「中国朝鮮族の民族教育の現状に関する実証的研究」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』29、



な漢語能力向上のために漢語教科書の改訂なども計画されている<sup>33)</sup>。

#### 第4項 消えつつある朝鮮族の文化

以上のように、朝鮮族は、ルーツを同じくする韓国や北朝鮮との関係や経済的発展の度合いによって自分たちとの距離を調節し、一方で中国の国民として、漢語教育の重視を受け入れようとしている。かつての貧しい環境でも寺子屋や私立学校を設け、朝鮮族の子どもに民族語と文字を教えた時代と異なり、中国の改革開放によって、朝鮮族の学校の廃止や漢族学校への進学が増加し<sup>34)</sup>、しだいに民族言語や民族文字は姿を消えつつある。特に朝鮮族の少ない散住地区では、漢族学校の選択により言語だけではなく生活スタイルも漢化するケースが見られる<sup>35)</sup>。

### 第3節 中国朝鮮族の学校のカリキュラム

#### 第1項 一般的なカリキュラム

中国は1940年代から現在まで、社会主義の政治理念を追求している。社会主義の政治理念は毛沢東思想が中心になっており、この思想はマルクス・レーニン主義を中国の実情にあわせて発展させた思想である<sup>36)</sup>。中国朝鮮族教育はマルクス・レーニン思想に基底を置いた毛沢東主義、少数民族の民族教育、実用主義的開放体制での転換にともなう開放の波などの影響を受けて発展してきた<sup>37)</sup>。

中華人民共和国の建国の後、朝鮮族は中国人としての帰属意識と、朝鮮半島人としての伝統と歴史を背負いつつ中国の一民族となった。中国の民族教育はあくまでも中国における国民教育の一部分であるために、民族学校で実施される教育もその基本原則は1994年に公表された「教育課程」に準じたものとなっている。中国の少数民族の朝鮮族は教育水準が高く民族意識が高い民族であるが、現在の教育は朝鮮族のための民族教育というよりも、国民教育の一環としての側面がより強くなっている。

中国朝鮮族学校における教育課程は、大別して「学科類課程」と「活動類課程」で構成されている<sup>38)</sup>。

#### 1. 学科類課程

「学科類課程」は必修科目である。朝鮮族小学校段階では「思想品德」「朝鮮語」「漢語」「数学」「社会」「自然」「体育」「音楽」「美術」「労働」の10科目があり、中学校段階では「思想政治」「朝鮮語」「漢語」<sup>39)</sup>「数学」「外国語」「歴史」「地理」「化学」「生物」「物理」「体育」「音楽」「美術」「労働技術」の14科目がある<sup>40)</sup>。「漢語」以外の科目は朝鮮語で教育されているが、教育内容は漢族学校と同じで、朝鮮語文以外には民族的内容を中心とした教科はない。中学校から始まる「歴史」「地理」においては、かつては朝鮮半島の歴史と地理を教える「朝鮮史」と「朝鮮地理」が存在したが、1953年に廃止され、歴

---

2007、p. 138

<sup>33)</sup> 同前書。

<sup>34)</sup> 同前書、p. 134

<sup>35)</sup> 前掲書 29)。

<sup>36)</sup> バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 121

<sup>37)</sup> 同前書。

<sup>38)</sup> 尹貞姫「中国における「国民教育」と「少数民族教育」の相克—中国朝鮮族学校における教育課程に着目して—」『国際開発研究フォーラム』第30巻、2005、p. 186

<sup>39)</sup> 1951年に開かれた全国第一次少数民族教育会議では、漢語は少数民族学校の必修課程になり、小学校から「漢語」が教育課程の中に入った。

<sup>40)</sup> 前掲書 38)。

史は「中国史」、地理は「中国地理」となった<sup>41)</sup>。朝鮮族が自民族の歴史や事情を理解する上で欠かせない朝鮮史や朝鮮地理については、「世界史」や「世界地理」の中で「朝鮮史」と「朝鮮地理」として簡単に扱われるため、朝鮮族児童・生徒の中には「秦の始皇帝」は知っていても「世宗大王」<sup>42)</sup>を知らないこともある<sup>43)</sup>。このように「朝鮮語」以外には朝鮮族の文化に関わる科目がなく、「漢語」、「外国語」以外は全国統一の基準に従うため、朝鮮族の学校は漢族の文化を伝承するシステムになっているといえよう。

朝鮮族学校と漢族学校との間の差異は朝鮮語の教育にある。朝鮮族学校では教授言語が朝鮮語であり、漢族学校の教授言語は漢語である。また、朝鮮族学校には朝鮮語という民族教科があり、漢族学校よりも教科が一つ多く設定されている。

表 1. 6-3 制全日制朝鮮族・漢族小中学校教育課程における各科目配當時数の比較

学年 科目		小学校						中学校			9 年間合計		差異	% <sup>2</sup>
		一	二	三	四	五	六	一	二	三	朝鮮族 学校	漢族 学校		
学 科 類 目	思 想 品 徳	朝 3)	1	1	1	1	1	1			204	204		2.0
		漢 4)	1	1	1	1	1	1						2.1
	思 想 政 治	朝						2	2	2	200	200		1.9
		漢						2	2	2				2.1
	国語 <sup>5</sup>	朝	8.7	6	6	6	6	7	3	3	1615	2200	-585	15.5
		漢	9	9	9	8	7	9	6	5				22.6
	漢語文 <sup>6</sup>	朝		4	4	4	4	5	4	4	1241	0	1241	11.9
		漢												0.0
	数 学	朝	4	5	5	5	5	5	5	5	1454	1454	0	14.0
		漢	4	5	5	5	5	5	5	5*				14.9
	外国語 1	朝							3	3	204	204	0	2.0
		漢							3	3				2.1
	外国語 2	朝							4	4	400	400	0	3.8
		漢							4	4				4.1
	社 会	朝				2	2	2			204	204	0	2.0
		漢				2	2	2						2.1
	歴 史	朝							2	2	200	200	0	1.9
		漢							2	2				2.1
	地 理	朝							3or2	2	153	153	0	1.4
		漢							3or2	3				1.6
	自 然	朝	1	1	1	1	1	1			272	272	0	2.6
		漢	1	1	1	1	1	1						2.8

<sup>41)</sup> 前掲書 13) p. 35

<sup>42)</sup> 朝鮮・李朝の第 4 代王（在位 1418-1450）で、朝鮮史上最も尊敬される人物である。「ハングル」（訓民正音フンミンジョンウム）を制定した。

<sup>43)</sup> 前掲書 40)、p. 193

学 科 類 課 程	物 理	朝								2	3	164	164	0	1.6
		漢								2	3				1.7
	化 学	朝									3	96	96	0	1.0
		漢									3				1.0
	生 物	朝							2or3	2		153	153	0	1.5
		漢							2or3	2					1.6
	体 育	朝	2	2	3	3	3	3	2	2	2	744	744	0	7.2
		漢	2	2	3	3	3	3	2	2	2				7.6
	音 楽	朝	2	2	2	2	2	2	1	1	1	508	508	0	4.9
		漢	2	2	2	2	2	2	1	1	1				5.2
	美 術	朝	2	2	2	2	2	2	1	1	1	508	508	0	4.9
		漢	2	2	2	2	2	2	1	1	1				5.2
	労 働	朝			1	1	1	1				136	136	0	1.3
		漢			1	1	1	1							1.4
	労働技術	朝							2	2	2	200	200	0	1.9
		漢							2	2	2				2.1
	週当たり 総時間数	朝	23	23	25	27	28	30	30*	30*	27*	8656	8000	656	83.2
		漢	21	22	24	25	25	25	29*	29*	25*				82.1
活 動 類 課 程	朝 会	朝	毎日 10 分ずつ												
		漢	毎日 11 分ずつ												
	少年先鋒隊 共青团活動	朝	1	1	1	1	1	1	1	1	1	304	304	0	2.9
		漢	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3.1
	科技文体 活 動	朝	4	4	3	2	2	2	2	2	2	878	878	0	8.4
		漢	4	4	3	2	2	2	2	2	2				9.0
	週当たり 総時間数	朝	5	5	4	3	3	3	3	3	3	1182	1182	0	11.4
		漢	5	5	4	3	3	3	3	3	3				12.1
	地方が定 めた時間	朝	1	1	2	2	2	2	1	1	5*	568	568	0	5.5
		漢	1	1	2	2	2	2	1	1	6*				5.8
	週当たり 活動総量	朝	29	29	31	32	33	35	34*	34*	35*	10406	9750	656	100
		漢	27	28	30	30	30	30	33*	33*	33*				100

注：尹貞姫「中国における「国民教育」と「少数民族教育の相克」－中国朝鮮族学校における教育課程

に着目して－『国際開発研究フォーラム』30、2005 年より抜粋

(原注) 1. 中国の小中学校における教育課程の基準は六三制と五四制の 2 種類が制定されているが、ここでは 6-3 制の基準を示した。しかし、地方レベルの朝鮮族学校と漢民族学校では、地域や居住の状況などにより多少修正される場合もある。

2. 週当たり総授業時数の中に占める各科目の割合。

3. 朝＝朝鮮族学校。

4. 漢＝漢族学校

5. 朝鮮族学校の場合は国語が朝鮮語、漢族学校の場合は国語が漢語になっている。

6. \*は朝鮮族学校では「日本語」、漢族学校では「漢語」科目の外国語を開設した場合の時数。

7. 1 単位時間は、小学校は一般に 40 分、初級中学は 45 分である。

尹貞姫（2005）の整理した表 1 によると、小学校と中学校で朝鮮族の学校の「朝鮮語」、「漢語」の課程と漢族学校の「語文」<sup>44)</sup>を除いた科目の時間数は同じである。9 年間の時間数を見ると漢族学校の「語文」の時間数は 2,200 時間であるのに対して、朝鮮族の学校の「朝鮮語」は 1,615 時間、「漢語」の時間数は 1,241 時間で、合計 2,856 時間となり、漢族学校より 656 時間多いことが分かる。学校の授業時間数が限られているため、朝鮮語と漢語のどちらも重視しようとする授業時間数が増えることになる。その結果、朝鮮族の学生の負担は「漢語」の授業に追加の時間を割くことで漢族の学生よりも大きくなっているうえに、朝鮮語は相対的に軽視されることとなる。

## 2. 活動類課程

「活動類課程」は 1994 年に公表された教育課程において、正式に教育課程の中に取り入れられ、必修となった<sup>45)</sup>。「活動類課程」には、「朝の会」「班・団体活動」「科学技術文芸活動」「体育活動」「社会实践活動」「学校の伝統的な活動」が含まれている。「朝の会」では国旗掲揚の儀式を行い、「時事・政策と日常行為規範」についての教育を実施し、朝鮮族の子どもたちに「私は中国人で、中国は私の祖国である」といった内容を教えることで、祖国を愛する感情と、国家の時事に関心をもたせることが意図されている<sup>46)</sup>。「班・団体活動」は、クラスあるいは少年先鋒隊（共産党の末端組織ともいえる）を単位として、特定の目的のもとで行う活動であり、この活動では、主に朝鮮族の子どもたちが指導者や共産党幹部に対する尊敬や念やまた共産党への憧れを育むことが目指されている<sup>47)</sup>。「科学技術文芸活動」は、科学技術、文芸、体育などを学ぶものであり、子どもが自由意思で参加することができ、子どもの趣味・特技を伸ばし、幅広い知識を身につけることを目指している<sup>48)</sup>。「体育活動」においては、学校によっては朝鮮族の伝統体育競技、例えば朝鮮相撲（原語はシルウム）などを教える場合もある<sup>49)</sup>。「社会实践活動」には、社会生産労働と社会ボランティア、社会調査、見学訪問及び軍事訓練などの活動が含まれ、生徒に工業・農業及び社会、地域と触れ合う機会を与えることによって社会主義制度の優越性を認識させ、労働者への感情と社会的責任感を養うことを目指している<sup>50)</sup>。毎年全校生徒が必ず見学する場所として中日戦争と関わりのある革命歴史遺跡などがある<sup>51)</sup>。これは歴史上の侵略の実態の見学を通じて、各民族共通の国家意識を奮い立たせ、愛国主義教育の効果を高めることを意図するものである<sup>52)</sup>。「学校の伝統的な活動」は国家の記念日、民族の伝統的な祝日、学校の体育祭及び文化祭などに行われる<sup>53)</sup>。そして、朝鮮族学校にとって最も重要な記念日は 6 月 1 日の「子どもの日」と 9 月 3 日の「民族記念日」であり、この日になると、朝鮮族の子どもだけではなく、学校周辺に住むほとんどの朝鮮族が学校に集まって民族の伝統行事<sup>54)</sup>を行いながら記念日を祝う<sup>55)</sup>。

<sup>44)</sup> 漢族学校で漢族学生を対象として行われている授業である。

<sup>45)</sup> 前掲書 43) p. 186

<sup>46)</sup> 同前書。

<sup>47)</sup> 同前書。

<sup>48)</sup> 同前書。

<sup>49)</sup> 同前書、p. 187

<sup>50)</sup> 同前書。

<sup>51)</sup> 同前書。

<sup>52)</sup> 同前書。

<sup>53)</sup> 同前書。

<sup>54)</sup> 文化娯楽体育活動、民族の風情展覧会などがある。

<sup>55)</sup> 前掲書 53)。

## 第2項 集住地区と散住地区<sup>56)</sup>の朝鮮族の学校教育

集住地区（延辺朝鮮族自治州）の朝鮮族の学校教育と散住地区の朝鮮族の学校教育は、ともに言語教育に重点を置き、朝鮮語と漢語の二言語と外国語教育（主に英語、日本語）に通じる生徒の育成を重視している<sup>57)</sup>。集住地区（延辺朝鮮族自治州）の朝鮮族は学校教育から日常会話まで朝鮮語中心の言語使用状況であり、散住地区の朝鮮族の学校は教授言語及び日常会話において漢語が主となり、ときには朝鮮語も使用する<sup>58)</sup>。このように言語使用状況は異なるものの、集住地区（延辺朝鮮族自治州）の朝鮮族の学校の授業科目と散住地区の朝鮮族の学校の授業科目はほぼ同じである。ただし、集住地区と散住地区の間には朝鮮族学校で使われている朝鮮語の教科書<sup>59)</sup>と漢語の教科書<sup>60)</sup>のレベル差に関する問題が存在している。これらのレベル差は日常生活で使用される言語と関係している。

### 1. 朝鮮語の教科書について

それぞれの地域で通常用いられる言語の違いから、散住地区の朝鮮族の学校の第一言語は漢語であり、朝鮮語は第二言語に位置づけられていることが多いのに対して、集住地区（延辺朝鮮族自治州）の第一言語に当たる学校の教授言語は朝鮮語である。しかし、いずれの居住地域の学校でも、朝鮮語の教科書は共通のものが使用されている<sup>61)</sup>。そのため、集住地区では、教科書の内容以上に高度な内容の朝鮮語の教科書が求められるのに対して、散住地区では教科書の内容が難しいという意見がある。

### 2. 漢語の教科書について

集住地区（延辺朝鮮族自治州）の学校では、延辺教育出版社が出版した漢語の教科書を用いている。この教科書は、漢族との交流が少ない集住地区（延辺朝鮮族自治州）の学校の学生には難しいものである一方で、散住地区の学生にとっては易しい内容となっている。そのため、散住地区の朝鮮族学校では漢語文科目用に高等学校二年生まで漢族学校用の全国統一編纂の『語文』<sup>62)</sup>教科書を用いるが、高等学校三年生は大学受験のために延辺教育出版社から出版されたより易しい漢語の教科書を用いる。それは朝鮮族の学校では大学入学試験の漢語の試験では、延辺教育出版社が出版する教科書の内容に準じたMHK（中国少数民族漢語能力試験）試験を受けるためである。しかし、MHKの試験内容は延辺出版の漢語の教科書の内容に準じるとはいえ、やや高度な問題となる傾向にあり、集住地区においても学校の漢語文科目の教員は学生たちの漢語能力を高めるために漢語の教科書以外の教材を使う場合が多い。

## 第4節 漢語教育の意味

朝鮮族が集住している延辺朝鮮族自治州の学校では、漢族との接触の機会が少なく、日常的に漢語を用いる機会は多くない。しかし、朝鮮族にとっての漢語の必要性はしだいに高まっている。それは漢語が中国の共通語であり、就職に必要とされるにかかわらず、延辺においては漢語を習得することに難しさを感じられるためである。

<sup>56)</sup> 集住地区とは、同一の民族が集まって居住しているところであり、散住地区とは、ほかの民族と雑居している地区を指す。

<sup>57)</sup> 趙貴花「グローバル化時代の少数民族教育の実態とその変容－中国朝鮮族の事例－」『東京大学大学院教育学研究科紀要』47、2008、p. 179

<sup>58)</sup> 同前書。

<sup>59)</sup> 延辺教育出版社のもの

<sup>60)</sup> 延辺教育出版社のもの

<sup>61)</sup> 前掲書 55)、p. 197

<sup>62)</sup> 大学受験の時一般的に朝鮮語文と漢語文の科目において、延辺出版の教科書から試験問題を出す。

## 第1項 中国の公用語としての漢語

中国には地方や、民族の違いにより様々な言語が存在している。中国政府は、コミュニケーションの障害をなくすために、長い間国家の統一と政治的に優位であった北京語を中国の統一言語とし「普通話」と命名した。1955年の第一次全国文字改革会議では、「普通話」は、北京語音を標準音とし、北方方言を基礎方言とし、手本となる現代白話文の作者をもって文法規範とする漢民族の共同語である」として「普通話」が定義された。また、「全日制民族中小学漢語文教学大綱」（1992）と「九年義務教育全日制初級中学語文教学大綱（試用）」（1995）では「漢語教育は、マルクス主義を指導理念とし、世界、未来に目を向け、教育改革を進め、社会主義の物質文明と精神文明の建設に寄与しなければならない」として<sup>63)</sup>、漢語教育は中国の社会主義の実現のための教育であると規定された。また、「中国は統一された多民族からなる社会主義国家であり、多くの少数民族が自民族の言語文字を有する。しかし、長期にわたる歴史発展の過程において、漢語は事実上各民族間で共通に使用される言語文字となっている」こと、「少数民族が漢語を学ぶことは、少数民族地区の科学文化を繁栄させ、経済発展を促し、民族間の交流を強めるうえで重要な意義をもつ」ことなどから漢語の教育が推奨されている<sup>64)</sup>。このように、中国政府は民族語を尊重しながらも、漢語が中国の共通語であることを明確にし、漢語を学ぶことは少数民族の発展を促すとしている。そして、1986年の「普通話」を広める政策によって漢語は標準化されて全国に広められることになった。学校教育においては、漢民族学校では「語文」、少数民族学校では「漢語文」として「普通話」が教育されている<sup>65)</sup>。

## 第2項 就職に必要とされる漢語

現在では、朝鮮族が就職を有利に進めるためにも漢語が不可欠となりつつある。朝鮮語だけで用いても生活に支障がなかった時代とは異なり、現在では東部沿岸部や韓国企業に就職してより良い暮らしをするために漢語の習得が必須となっている。今日でも、朝鮮族が延辺朝鮮族自治州内で就職する場合は朝鮮語のみでそれほど問題はないが、延辺朝鮮族自治州以外の場所で就職あるいは昇進するためには、漢語の能力を高めなければならない。それは、延辺の朝鮮族が延辺自治州だけでなく中国各地の人々を競争相手とする場合に、漢語能力が有利に働くためである。これは普段、漢族との交流が少ない延辺朝鮮族自治州の朝鮮族にとっては切実な問題である。

さらに中国だけではなく、韓国への就職においても漢語能力が必要となっている。かつては主に韓国企業と中国との仲介のために、朝鮮語によって意思疎通が可能な朝鮮族が韓国企業に採用されていたが、改革開放の政策以降、多くの韓国の企業が中国に入ってきた。その際に韓国語を理解できることから多くの朝鮮族が韓国の企業に勤めることになった。しかし、このような時期は長くは続かなかった。現在では、有力な会社、特に財閥グループ企業は朝鮮族の採用を減らそうとしている。その主な原因は、漢語能力や中国文化への理解、人脈において朝鮮族が漢族よりも劣っているためである<sup>66)</sup>。

韓国側からのニーズがあるためだけでなく、現在では漢族も積極的に朝鮮族の競争相手となり、朝鮮語を学んで条件の良い韓国の企業に就職しようとしている。延辺大学でも

<sup>63)</sup> 新島翠「少数民族に対する中国語学習指導法の再検討—二言語教育の応用例として—」『聖徳学園岐阜教育大学紀要』第34巻、1997、p. 193

<sup>64)</sup> 同前書、p. 194

<sup>65)</sup> 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開—中国の普通話政策との関わりを中心に—」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第7期第2号、2010、p. 72

<sup>66)</sup> 2011年8月17日に中国にある韓国のS社の課長にインタビューを行った。

2005 年に朝鮮－韓国学学院が設立され、さらに朝鮮語学科が設置されたことにより、漢族が朝鮮語を学ぶ環境が整いつつある。そして、漢語が分かる韓国人と韓国語が分かる漢族が急増したこともあり、韓国との貿易をする、あるいは韓国企業に就職する朝鮮族は減少傾向にある。このような不利な社会条件のもとで朝鮮族は漢語を学習することで自分たちの価値を高めようとしている。

そのため、朝鮮語と漢語の学習時間の比重の変化は、中国政府の法的な規定によるだけでなく、朝鮮族のニーズに応じたものでもある。尹貞姫（2005）は、朝鮮族の学校の朝鮮語と漢語の時間数の差を明らかにしている。この研究によると、朝鮮族学校における朝鮮語と漢語の週間授業時数の差は、小学校では1年生の前期の5時限から後期には3時限になる。さらに2年生からは2時限に減るが、それでも朝鮮語の授業の時間数は漢語の授業の時間数よりは多い状態が保たれる。しかし、中学校からは漢語の授業の時間数が朝鮮語の授業の時間数より多くなる。このような朝鮮語の学習時間の比重も、負担ではありつつも朝鮮族の意向を無視しているとは言い切れないのである。

### 第3項 朝鮮語と漢語の教育のジレンマ

朝鮮族学校（特に延辺朝鮮族自治州）では漢語科目以外は朝鮮語を教授言語として採用しているため、朝鮮族学校に通うと朝鮮語力向上という面ではプラスに作用するものの、漢語能力を身につけるとい面ではマイナスになる<sup>67)</sup>。

延辺大学は自校の学生を対象に、朝鮮語と漢語の水準について調査を行った<sup>68)</sup>。その結果は以下のとおりである。小学校から高級中学校まで朝鮮族学校で学んだ学生の朝鮮語の水準は、ほぼ高級中学卒業の水準に達しているが、漢語の能力が低いため大学での学習に支障をきたす。小学校、初級中学は朝鮮族学校で、高級中学は漢族学校だった学生である場合、朝鮮語は初級中学卒業の水準を満たし、漢語の方は大学の授業においては問題ないが、漢族学校の高等学校の水準には達しない。小学校は朝鮮族小学校で、初級・高級中学は漢族学校で学んだ学生の朝鮮語の水準は低く、漢語も漢族学校の高級中学卒業水準には達していない。小学校から高級中学まですべて漢族学校で学んだ学生の漢語の水準は、漢族学生の漢語の水準に達しているが、朝鮮語は分からない。

このように、朝鮮族（特に延辺朝鮮族自治州）にとって漢語を身につけることは簡単なものではなく、漢語の学習は朝鮮族に負担をかけている。しかし、中国での生存競争に勝ち抜くには漢語が必要とされ、漢語を覚えなければならない。このように漢語が重要であり、漢語を自由に使いこなすためには漢族学校で学ばばよいのだが、漢語の重視は民族言語である朝鮮語の軽視にもつながり、朝鮮語と漢語の教育のバランスに関して難しいかじ取りを迫られるのである。

### 第5節 まとめ

中国朝鮮族の教育は、朝鮮半島から移住した後も変わらず重視されているが、現在では中国国内で有利な立場を維持するために、朝鮮半島や中国との関係のなかでバランスをとらざるをえない状態となっている。

朝鮮族の教育を行う学校のカリキュラムや活動の内容には、民族性だけではなく共産主義に関する科目・内容が設置されている。また、朝鮮族と同じ民族である韓国と北朝鮮との関係にもその教育は影響され、さらに中国国内においては、漢語能力の強化が求められることによって、民族語の地位は総体的に低下しつつある。

<sup>67)</sup>前掲書 32)。

<sup>68)</sup>前掲書 22)、p. 159

漢語の学習が朝鮮族の学生にとって負担であることは理解されているものの、朝鮮族の子どもには就職のために積極的に漢語の学習を行うことが求められている。しかし、漢語の学習に限るなら漢族の学校は最高の環境であるとはいえ、保護者は単純に漢族の学校に通うことで漢語を身につけさせたいとは考えておらず、現在でもかなりの数の子どもが朝鮮族の学校において漢語を学んでいる。このようなジレンマが中国朝鮮族の教育に存在している。

## 引用・参考文献

### 日本語文献

- 1) 新島翠「少数民族に対する中国語学習指導法の再検討ー二言語教育の応用例としてー」『聖徳学園岐阜教育大学紀要』第34巻、1997、pp. 191-200
- 2) 崔斌子「中国における朝鮮族教育の四十五年」東京都立大学人文学部『人文学報 教育学』30、1995、pp. 247-281
- 3) 出羽孝行「中国朝鮮族の民族教育の現状に関する実証的研究」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』29、2007、pp. 130-144
- 4) 金成子「中国都市部における民族教育に関する一考察：北京に住む朝鮮族を事例として」『アジア社会文化研究』第11期、2010、pp. 37-57
- 5) 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開ー中国の普通話政策との関わりを中心にー」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第7期第2号、2010、pp. 71-84
- 6) 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育ー「民族平等」理念の展開ー』東信堂、2001
- 7) 尹貞姫「中国における「国民教育」と「少数民族教育の相克」ー中国朝鮮族学校における教育課程に着目してー」『国際開発研究フォーラム』30、2005、pp. 183-200
- 8) 趙貴花「グローバル化時代の少数民族教育の実態とその変容ー中国朝鮮族の事例ー」『東京大学大学院教育学研究科紀要』47、2008、pp. 177-187
- 9) 魯在化 解説・訳「資料中国延辺朝鮮族教育史年表」東京学芸大学『国際教育研究』9、1989、pp. 22-44
- 10) 権寧俊「朝鮮人の「民族教育」から朝鮮族の「少数民族教育」へ」『文教大学国際学部紀要』第15巻2号、2005、pp. 175-203

### 中国語文献

- 1) バクテジュ「朝鮮族教育の歴史の特徴と基本経験」『延辺大学学報：社科版』2003、pp. 45-48
- 2) 申英美「中国朝鮮族教育の問題に関する研究」『中央民族大学』2006、pp. 1-54
- 3) 王紀芒「中国朝鮮族の民族アイデンティティと国家アイデンティティ」『民族学院学報：哲学社会科学版』第26巻第4期、2008、pp. 15-30
- 4) 「中国第一次全国人口調査」中華人民共和国国家統計局、1953

### 韓国語文献

- 1) バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、pp. 121-151
- 2) キムハンジョン「朝鮮総督府の教育政策と教科書の発行」『歴史教育研究』第9号、2009、pp. 295-329



### 第3章 中国朝鮮族の幼稚園

#### 第1節 中国朝鮮族の幼稚園の一般的背景

中国朝鮮族の幼稚園教育は延辺朝鮮族自治州を中心に発展してきた。延辺朝鮮族自治州では1945年の中国建国後、農業生産の発展によって女性の地位が次第に高まり<sup>1)</sup>、男性と同様に社会活動や生産活動に参加するようになった。そのため、かつての非公式の家庭託児所、幼児班に代わって、現在では社会的認められた託児所、幼稚園が発展し<sup>2)</sup> 独自の特徴をもつようになり、民族教育システムの一部として定着した。

1989年「幼稚園工作規定」<sup>3)</sup> が実行された後、中国政府による朝鮮族幼稚園の管理も強化され、1990年には保育と教育の質を高めるために「延辺朝鮮族自治州の幼稚園工作規定」<sup>4)</sup> が制定された。現在では、1999年に制定された「朝鮮族の幼稚園教育課程」<sup>5)</sup> を基準として朝鮮族の幼稚園の教育課程が定められることとなっている<sup>6)</sup>。また、2007年の「幼児教育の管理を強化することに関する意見」<sup>7)</sup> においては、朝鮮族幼稚園のさらなる発展のために朝鮮族の幼稚園の教材や教育課程や教師指導書を統一し、健康、社会、科学、言語、芸術の五つの領域を通じて、民族の文化を伝承し朝鮮族幼児教育を発展させることを目指している。

2004年9月の延辺教育局の統計によると、延辺朝鮮族自治州には643(漢族幼稚園を含む)の幼稚園がある。朝鮮族幼児のみが通う幼稚園は115園、漢族と朝鮮族の幼児がともに通う幼稚園は49園である。延辺朝鮮族自治州の幼稚園児は43,044名(漢族幼児を含む)であり、そのうち朝鮮族幼児は10,321名である<sup>8)</sup>。吉林省教育厅民族教育部の統計によると、2006年5月の吉林省散住地区の朝鮮族の幼稚園(小学校附属学前クラスを含む)は34園で、その長春地区が7園、四平地区が1園、通化地区が12園、白山地区が1園、吉林地区が13園である<sup>9)</sup>。

#### 第1項 朝鮮族幼稚園の教育目的

延辺朝鮮族教育幼稚園の教育目的は社会主義理念に基づいた新しい人間育成であり、専門意識と機能を備え、国家建設に有用な人材を養成するとしている中華人民共和国の教育目的<sup>10)</sup> に従っている<sup>11)</sup>。詳しくは以下のとおりである<sup>12)</sup>。

1. 幼児の身体の正常な発育と機能の協調的發展を促進し、体質を増強し、良好な生活習慣と衛生習慣と体育活動に参加する興味を育てる。
2. 幼児の知力を発展させ、正確に感覚器官を用いる能力と言語交流の基本能力を育て、

<sup>1)</sup> 農業生産の発展によって、社会が求める労働力を充足するため、男性だけではなく女性も社会に出るようになった。

<sup>2)</sup> ラジヨンイル「黒龍江省の朝鮮族幼児学前教育現状の調査報告」『黒龍江民族叢書(双月刊)』第2期、2011、p. 164

<sup>3)</sup> 「幼稚園工作規定」は、1996年に中華人民共和国の国家教育委員会で決定された。

<sup>4)</sup> 「延辺朝鮮族自治州の幼稚園工作規定」は、1990年に延辺朝鮮族自治州教育委員会で決定された。

<sup>5)</sup> 「朝鮮族の幼稚園教育課程」は、1999年に東北三省教育委員会で決定され、2000年9月から実施された。

<sup>6)</sup> バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 123

<sup>7)</sup> 「幼児教育の管理を強化することに関する意見」は、2007年に延辺朝鮮族教育局から発表された。

<sup>8)</sup> 崔美玉「朝鮮族幼児教育の質量分析及びその対策」『吉林省教育学院学报』第23巻第7期、2007、p. 14

<sup>9)</sup> 同前書。

<sup>10)</sup> 中華人民共和国の教育目的は、遠大な共産主義の理想と道徳があり、知識があり、身体が健康で、国民のために貢献し、祖国のために貢献し、人類のために貢献する意向を抱いた新しい人間を育成することである。

<sup>11)</sup> 前掲書6)、p. 124

<sup>12)</sup> 前掲書3)。

環境についての認識を高め、有機的な興味と知識への欲望を育て、初歩的な運動能力を育てる。

3. 幼児が故郷、祖国、集団、労働、科学を愛する情感を育て、誠実、自信、常に物事に対して疑問を持つ（好問）、友愛、勇敢、公共物を大切にする、困難を克服する、礼儀、規律を守るなど良好な品徳行為と習慣を育て、活発出明い性格を育てる。
4. 幼児の初歩的な美を感受し表現できる情趣と能力を育てる。

また、朝鮮族幼稚園の教育は、小学校入学のための準備教育として<sup>13)</sup>、幼児の全面的発達を保障するために、健康、社会、科学、言語、芸術の五つの領域を定めて教育内容を規定している。

## 第2項 朝鮮族幼稚園の教育内容と方法

朝鮮族幼稚園の教育は、幼児の心身を健康に全面的に発達させ、小学校入学のための基礎を築くことを目指して、認知的な側面を強調し、結果を重視する小学校の準備教育になっている<sup>14)</sup>。一般的に生活衛生習慣、体育活動、言語、常識、数学、音楽、美術などの科目があり、その科目は小クラス、中クラス、大クラスに分けて行っている。バクジャファン（2000）は、朝鮮族幼稚園の教育では、民族の伝統文化や朝鮮語文の教育が重視されていると指摘している。

教育の方法としては、法令上は合科<sup>15)</sup>、個別学習<sup>16)</sup>、遊戯<sup>17)</sup>、活動間の均衡<sup>18)</sup>、情緒的発達<sup>19)</sup>が重視されている<sup>20)</sup>。しかし後に確認するように、実際の朝鮮族の幼稚園では一斉指導を中心として教科ごとに時間を区切った授業が行われている。

## 第3項 漢語教育

朝鮮族の幼稚園でも漢語の教育は重要視されている。「延辺朝鮮族自治州の朝鮮族教育

---

<sup>13)</sup> 前掲書 6)、p. 134

<sup>14)</sup> 同前書、p. 132

<sup>15)</sup> 合科：教育課程においての五つ領域は独立した教科ではない。教育目標の構成領域であり、提示された教育内容は指導の順序を意味するものではない。そのため、幼稚園教育においては教育原則に基づき、体育、知育、徳育、美育の教育が互いに浸透され、有機的に結合され、適切な時期と状況に合わせて統合的に運営できるように教育活動を計画するべきである、とされている。（バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 132）

<sup>16)</sup> 教育活動の内容は、教育目的、幼児の実際の水準及び次第に進む原則に基づき計画的に選択、組織するべきであり、教育内容は一回の内容で終わることではないため、主体、幼児の要求及び状況によって多様な活動で何回も行うべきである、とされている。（バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 132）

<sup>17)</sup> 遊戯は幼児の全面的な発達に重要だと考えられている。そのため、幼稚園教育は遊戯を基本活動にするべきである。遊びについての幼児の興味、選択を尊重し、幼児の実際の経験と興味と趣味に基づき適当に指導することで、幼児の愉快な情緒をもつようにし、能力、個性が全面的に発展するようにする、とされている。（バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 132）

<sup>18)</sup> 一日の教育活動は動的な活動と静的な活動、室内活動と室外活動、個人活動と集団活動、幼児主動の活動と教員主動の活動などが均衡的に行い、さまざまな教育内容を合理的に組織し各活動の中に浸透させ、会話、討議、発表、劇遊び、観察、実験、見学、モデル提示など多様な方法の中で教育内容の性格によって最も適切な方法を選択するべきである、とされている。（バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 132）

<sup>19)</sup> すべての幼児を対象に積極的に励まし、肯定的な言語表現で啓発、誘導するかたちで情緒的発達を促し、幼児の積極的な活動を通じて異なる水準の幼児すべてを発達させる同時に個人差に重視し幼児の個性が健全に発展できるようにする、とされている。（バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、p. 132）

<sup>20)</sup> 前掲書 14)。

条例」(2004)<sup>21)</sup> 第 25 条によると、「基礎教育の段階において、朝鮮語と漢語、及び外国語の学習を強化し、朝鮮語と漢語がともにうまく話せるようにさせ、多言語文字を学習・使用するための基礎を作る」と規定されている。このうち外国語については英語などの教育が行われているものの、実際には単語を朝鮮語で教授するのみであり、漢語と比べると教育への取り組みとしては実質的には大きな差が存在している。

漢語は中国の各民族の共通語であり、重要な交流の手段である。そのため、中国の朝鮮族も、朝鮮語や朝鮮文字を学ぶと同時に漢語、漢字も学ばなければならない。それは、漢語の使用に必要な基礎的能力をもち、朝鮮語と漢語のどちらも通じた人材になることが求められているからである<sup>22)</sup>。漢語強化の取り組みは、幼稚園でも実施されている<sup>23)</sup>。取り組みの背景は二つあり、一つは幼児の全面的素質を向上させ、朝鮮族が新世紀の競争の激しい環境の中で勝ち抜くためであり、もう一つは朝鮮族の子どもの漢民族学校への転校を食い止めるためである<sup>24)</sup>。また、幼児期は言語を早く修得するのに一番良い時期である<sup>25)</sup> ことにも関連している。

2002 年から、延辺朝鮮族自治州の多くの朝鮮族幼稚園では教育教学改革を行い、幼児に二言語の習得を可能にする教育環境を整備しようとしている<sup>26)</sup>。教育環境作りにおいて注意することとしては、1) 幼児が自然に話すように、言語交流の環境の創設を重視すること、2) ゲームを取り入れ、幼児が自発的に話すようにすること、3) 積極的に活動できる穏やかな環境を作って、幼児が気楽に話すようにすることが挙げられている。二言語教育においては、「積極的に探索し、確実に進み、段階別に展開し、段階別に要求する」(积极探索, 稳妥推进, 分步开展, 分层要求) という方針に従って、「二言語をともに用い、段階別で次第に進み、重点を明確にし、特色を作り出す」(双语并行, 分层递进, 重点突破, 形成特色) を実現することを目指している。また、二言語を併用する幼稚園を増加させることも目標にされている。特に農村幼稚園での二言語クラスを増設によって、より多くの朝鮮族の幼児が幼い時から民族語と同時に漢語も学べる環境を整備することは急務と考えられている<sup>27)</sup>。これらを実現させるために、延辺自治州は、延辺朝鮮族幼稚園での二言語教育を保障するために中央政府や省政府に援助<sup>28)</sup> を求め、県、郷、村の幼稚園で二言語教育を行い、幼児に漢語を習得させる環境を整備しようとしている<sup>29)</sup>。

## 第 2 節 中国朝鮮族の幼稚園の一日と教員の教育的配慮

### 第 1 項 調査の概要

#### 1. 調査の目的

本節では、朝鮮族の幼児が幼稚園の一日の生活の分析から、幼児がどのように民族の文

<sup>21)</sup> 延辺朝鮮族自治州人民代表大会常務委員会の「延辺朝鮮族自治州の朝鮮族教育条例」は、2004 年に吉林省第 10 回人民代表大会常務委員会代 10 次会議より採択された。

<sup>22)</sup> 李美善、金春徳「二言語教育：民族幼児教育のひとつの重要な部分」『中国民族教育』第 10 期、2006、p. 21

<sup>23)</sup> 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開－中国の普通話政策との関わりを中心に－」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第 7 期第 2 号、2010、p. 81

<sup>24)</sup> 延辺教育情報資源網 <http://www.ybedu.net/web1/show.aspx?id=476&cid=23> 張文 (2007) 『環境を創設し、朝鮮族幼児の二言語会話能力を高めることに関して』

<sup>25)</sup> 前掲書 22)。

<sup>26)</sup> 「延辺朝鮮族自治州学前教育發展の問題に關しての意見」は于春海が 2011 年に中国人民政治協商會議延辺朝鮮族自治州第十一回委員會第四次會議で発表した。

<sup>27)</sup> 同前書。

<sup>28)</sup> 延辺自治州が求めた援助には、二言語教育を行う幼稚園への公用による援助、幼児の食費、幼児のテキスト費、教育資源への援助、幼稚園の教育、生活の援助及び施設の援助、幼稚園の教員の生活への援助が含まれる。

<sup>29)</sup> 前掲書 26)。

化を受け継いでいるのか、また中国の教育機関での二言語教育をはじめとした教育によってどのように異文化を経験しているのかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 調査対象

調査対象は延辺朝鮮族自治州の延吉市にある朝鮮族の T 幼稚園であり、主要な教授言語は朝鮮語である。複数の園に調査への協力を要請したものの、教育のノウハウの収集が目的ではないかなどの懸念や、様子を部外者に見せることへの懸念から多くの園から協力が断られたなかで、T 幼稚園の協力を得て実現したものである。直接の参加への抵抗は多くの園で強かったことをふまえ、園側が見せたい教育場面が選別されることは避けられないながらも、園側の教員にビデオでの記録を依頼することにした。

T 幼稚園は私立幼稚園であり、5 つの朝鮮族クラスと 1 つの漢族クラスがある。各クラス 1 名の担任がおり、朝鮮族の教員は 5 人、漢族の教員は 1 人であった。朝鮮族のクラスは小小クラス（3 歳）、小クラス（4 歳）、中クラス（5 歳）、大クラス（6 歳）、学前クラスがあり、漢族のクラスは 5 歳、6 歳、7 歳の子どもが 1 つのクラスで活動している。朝鮮族の園児数は 89 人であり、漢族の園児数は 17 人である。また、朝鮮族のクラスや漢族のクラスという概念は厳密なものではなく、様々な理由から民族とは別のクラスが選択される場合もあり、朝鮮族のクラスにも漢族のクラスにも当該民族以外の園児が存在している。T 幼稚園は 5 歳の中クラスから二言語教育を開始している。このように幼稚園で二言語教育を開始する朝鮮族の幼稚園は多く一般性がある点、また漢語を教えることによって朝鮮族の子どもが自分の文化とは異なる文化を経験することになるという点で、T 幼稚園は今回の調査の対象としてふさわしいと判断した。ここではビデオによる記録の許可の得られた 5 歳の中クラスを観察の対象にする。5 歳の中クラスには 16 人の朝鮮族の子どもと、2 人の漢族の子どもがいる。

## 3. 調査の方法

ビデオは中クラスの生活を実習生に依頼して撮影したものである。2011 年 9 月 12 日から 2011 年 9 月 14 日まで 3 日間の様子を園の許可を得て撮影してもらった。ビデオ映像は一日当たり 9 時間 30 分撮影され、全撮影時間は 23 時間 30 分であった。

また、幼稚園の中クラスの担任（朝鮮族、25 歳）、漢語会話の授業の担当者（漢族、24 歳）、園長（朝鮮族、51 歳）の 3 人に簡単な質問を行って園の教育方針を確認した。

以下では一日の時間割表と中クラスの毎週の授業時間割表に従って、T 幼稚園の中クラスの日を記述していく。なお T 幼稚園では、朝鮮語（延辺の方言）、中国語（漢語）、韓国語（韓国で使用されている朝鮮語）が使用されていた。これらの使い分けを明確に示すために、教員、子どもが使用した言葉のうち、朝鮮語、韓国語、中国語いずれの言葉を日本語で翻訳した後に特殊なものは括弧内に元の言語を書きいれている。文中では韓国語はイタリックで表記し、中国語をゴシックで表記した。また、朝鮮族の独特な文化・習慣は「\_\_\_\_\_」で強調した。

### 第 2 項 一日の様子

朝鮮族の一日は、登園後の自由遊びの時間の後は定期的な休憩や食事を挟んだ複数の授業を基盤として構成されている。表 1 は T 幼稚園の一日の時間割表である。幼稚園の室内活動はすべて朝鮮族の生活の基盤となる空間であるオンドル<sup>30)</sup>の上で行われる。

<sup>30)</sup> 火気が床の中を通して、床を温める装置であり、朝鮮族の伝統的な設備である。暖を取る必要性から生まれた設備であるが、床を温めるという意味で就寝から生活まで、様々な用途に同じ空間を用いる

表 1. T 幼稚園の時間割表

時間	項目	内容
7:30-8:00	登園	幼稚園バスから登園する子どもを迎える 保護者と子どもの様子について話す
8:00-8:30	自由遊び	登園した後の荷物整理 室外での自由遊びの時間
8:30-9:00	朝の体操	教員と子どもと一緒に体操する
9:00-9:30	授業 1	授業時間割表を参照のこと
9:30-10:00	自由遊び※	室外・室内での自由遊びの時間
10:00-10:30	授業 2	授業時間割表を参照のこと
10:30-10:40	食前準備	トイレに行く、手を洗う
10:40-11:30	昼食事	食事に関する指導
11:30-12:00	自由遊び※	室外・室内での自由遊びの時間
12:00-14:00	昼寝及び整理整頓	昼寝 起きてから自分の布団などを自分で片付ける
14:00-14:30	おやつ時間	時間内で食べるように指導する
14:30-15:00	授業 3	授業時間割表を参照のこと
15:00-15:30	手遊び	リズムに合わせた手遊び
15:30-16:00	授業 4	授業時間割表を参照のこと
16:00-16:30	自由時間※	室外・室内での自由遊びの時間
16:30-17:00	評価及び帰宅	室内の片付け、帰宅準備

注：(※) は小小クラスを別にした自由遊びである。

(T 幼稚園の一日時間割表を参照)

## 1. 登園

登園時に子どもは幼稚園のバスで、あるいは保護者と一緒に幼稚園に登園する。教員たちはバスから降りる子どもたちとあいさつをする。朝鮮族の教員は朝鮮語で、漢族の教員は漢語であいさつを行う。子どもたちは姿勢を正して頭を下げ「おはようございます (안녕하세요)」とあいさつをする。登園時には、保護者と教員は子どもの様子について話をしている。保護者の中には漢族の保護者もいるため、教員は漢族の保護者とは漢語で話しをし、朝鮮族の保護者とは朝鮮語で会話を行う。保護者と教員の会話が終わると、子どもは保護者に、姿勢を正して頭を下げ韓国語で「さよなら (안녕히 가세요)」とあいさつをするか、あるいは手をふりながら中国語で「さよなら (再见)」とあいさつする。

## 2. 自由遊び

朝、幼稚園では音楽を流している。明るく活動的な雰囲気にするために韓国の K-POP<sup>31)</sup> や、中国の童謡が用いられている。子どもは自由遊びの間、流れている曲や童謡に合わせて自分なりに踊ったり、ハミングをしたりする。民族の区別は明確ではなく、朝鮮族の子どもも中国の童謡を歌っている。

という朝鮮族独自の生活スタイルを規定する重要な設備である。

<sup>31)</sup> 筆者が幼い頃には、親たちは K-POP は恋愛などを題材にしているため子ども向けの歌ではないと考えており、子どもに聞かせようとしなかった。

登園した子どもたちはまず室内に入り、自分のものを整理する。整理が終わると外に出て自由に遊ぶ。この時間帯の自由遊びは朝の体操の時間の準備の時間でもあるため、教員たちはできるだけ室外で行われるように子どもを誘導している。朝の自由遊び時間以外には、自由遊びの時間は室内でも遊びが行われるが、朝の時間帯は全員が外に向かっていた。

自由遊びの時間の遊び相手は、多くの場合同じ民族の幼児たちであったが、朝鮮族の子どもと漢族の子どもが一緒に遊んでいる事例も存在した。

#### 事例 1

滑り台での遊び場面。朝鮮族の子どもの後ろにいた漢族の子どもが、前で滑る準備をしている朝鮮族の子どもが早く滑るようにと押した。朝鮮族の子どもは怖がって「押さないで、怖い！（不要推，害怕！）」と漢語で漢族の子どもに意思表示をする。

#### 事例 2

中クラスにいる漢族の幼児と朝鮮族の幼児の遊び場面。朝鮮族の子どもは漢族の子どもと漢語で会話をしている。漢族の子どもが「そのパトカーがほしい（我要那个警车）」と朝鮮族の子どもの持っているパトカー（警车）を欲しがっているが、朝鮮族の子どもはパトカー（警车）が何か分からないでいる。それを見た漢族の子どもはパトカー（警车）を指さした。朝鮮族の子どもは自分が持っていたパトカー（警车）を渡す。

事例 1 や事例 2 に見られるように、朝鮮族の子ども、漢族の子ども共に他の民族の言語は十分に用いることができないものの、遊び場面で意思表示をする際には相手に分かる言語で意思疎通を図っている。ここで取り上げた場面はどちらも朝鮮族の子どもが漢語を用いていたが、漢族の幼児も自分の知っている範囲で朝鮮語を用い、朝鮮族の幼児と遊んでいる。朝鮮族の子どもも漢族の子どもも互いの言語についての知識は十分ないため、自分の知っている範囲の言葉を用い、言語だけでは意志が通じない場面でも身振りなどを用いて意味を伝え、理解しようとしていた。

### 3. 朝の体操

教員は体操の時間の前に子どもたちをクラスごとに列に並べ、まっすぐ列に並ぶように指示する。園児たちが並ぶと曲に合わせて体操を行う。最初の曲は中国の「幼児のラジオ体操—世界は美しい（幼儿广播体操-世界真美好）」であり、この曲は毎朝この時間の最初の曲となっている。この体操の歌詞は「勇敢、衛生、団結、規律、礼儀、互助、健康」を題材にした動物たちが登場する。次に韓国の童謡に合わせて踊る。韓国の童謡には、「トマト（토마토）」、「もちろんソング（당근송）」、「小リスのドミ（아기다람쥐 도미）」、「雪が喜びになる日（눈이 기쁨되는 날）」などがあり、子どもたちは体操の歌（漢語）や韓国語の童謡を歌いながら踊っている。体操が終わると、大クラスから列に並んで、後ろの人は前の人の服をつかんで順序正しく室内に入る。

### 4. 授業

次に T 幼稚園の中クラスの授業を概観する。表 2 は T 幼稚園の中クラスの毎週授業時間割表である。

表 2. T 幼稚園の中クラスの毎週授業時間割表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00-9:30	朝鮮語	常識	体育	常識	アニメ鑑賞
10:00-10:30	美術	音楽	朝鮮語	英語	美術
14:30-15:00	漢語	数学	アニメ鑑賞	漢語会話	数学
15:30-16:00	英語	漢語会話	漢語	音楽	体育

注：以上の授業の以外はサークルとして英語、美術、電子ピアノの授業があり、16:00 から 30 分ぐらい行われている

(T 幼稚園の中クラスの毎週授業時間割表を参照)

T 幼稚園は 7:30 から 17:00 まで開園しているが、授業は 9 時から始まり、16:00 に終わる。毎日 4 つの授業が行われ、1 回の授業は 30 分間である。授業科目には朝鮮語、美術、漢語、英語、常識、音楽、数学、漢語会話、体育、アニメ鑑賞がある。また、授業時間以外にも英語、美術、電子ピアノのような科目があり、これは授業終了後の 16:00 から 30 分程度行われる。この授業は正規の保育料とは別料金であり、希望者がサークル活動として行うものである。

#### (1) 朝鮮語による授業

漢語会話の科目を除いて、授業はすべて朝鮮族の教員が朝鮮語で行っている。また、アニメ鑑賞の時間以外は授業開始前と授業終了の際に必ず姿勢を正して立って頭を下げることで教員にあいさつをする。授業開始前は「おはようございます (안녕하세요)」とあいさつをし、授業終了後は「ありがとうございます (감사합니다)」とあいさつをする。

朝鮮語の授業では新しい文字や単語を教えている。朝鮮語を教える際に、教員たちが注意しているのは朝鮮語の正しい発音や使い方を子どもたちが身につけることである。授業で用いられる言葉は標準語であり、延辺の方言はできるだけ避けられている。標準語の語尾やアクセントなどは延辺の方言に近い北朝鮮の言葉ではなく韓国語に近いものである。子どもに標準語を何回も繰り返し練習させることによって、標準語を身につけられるように指導が行われる。また、朝鮮語の授業では、絵を見せて描かれているものを朝鮮語で答えさせたり、朝鮮語の絵本を読んだりもする。絵本は韓国で製作された絵本であり、『銀梯子、金梯子 (은사다리 금사다리)』や『ヘンゼルとグレーテル (헨젤과 그레텔)』、『アリとベチャン (개미와 베짚이)』などがある。

音楽の授業では、朝鮮語の歌を主に歌っているものの、時折中国語の歌も歌っている。朝鮮語の歌は韓国の歌である。

美術時間には、絵が描かれることが多く、ここでは身近な中国のアニメのキャラクターが人気の題材となっている。

漢語の授業も朝鮮語の授業と同様に朝鮮語で行われるが、文字や単語や会話練習の際には漢語が用いられる。しかし、教員による質問や説明などは朝鮮語で行われている。授業の活動には、絵で示したものの名前を漢語で答えるものや、簡単な会話を朝鮮語に翻訳するもの、詩（中国の詩人李白の詩）の朗読などがある。

アニメ鑑賞の時間には中国語のアニメや朝鮮語のアニメを子どもたちに見せている。中国語のアニメには、中国のアニメや、中国語で翻訳されたアニメである。子どもたちが見るアニメには、中国のアニメの「シヤヤ（喜洋洋）」、中国語で翻訳された日本の「ドラえもん（哆啦 A 夢）」などがある。また朝鮮語のアニメには韓国のアニメだけではなく、北朝鮮のアニメもある。韓国のアニメとしては「ポロロ（뽀로로）」「昔々（옛날옛적에）」、

北朝鮮のアニメとしては「賢いたぬき (령리한 너구리)」などがある。

## (2) 漢語会話の授業

朝鮮族の幼稚園では漢語の授業が重視されている。園長をはじめとした教員の話聞く限り、漢語を重視するのは幼稚園で漢語を教えてほしいという保護者の強い希望があり、結果としてどのような漢語の授業を行っているかが幼稚園の経営にかかわるためであった。現在の延边では、漢語の能力が高い朝鮮族が就職などの際に求められる傾向にある。このような現状から、保護者は子どもが幼いころから漢語を学習して、漢語の能力を高めることを希望している。それは、幼稚園から漢語を学習することで、小学校でより高いレベルの漢語を学習する際の負担を減少するためでもある。T 幼稚園の園長は、朝鮮族の幼稚園として民族の文化や伝統を伝える教育が大切だと考えながらも、社会の状況や保護者の要求に合わせ、幼稚園の経営のために漢語の授業をカリキュラムに加え、漢語を重視しなければならないと述べている。また、同じ朝鮮族であっても、より若い別の朝鮮族の教員はグローバルな時代には異なる文化に接触することが大事であると漢語の授業を積極的に捉えていた。経営戦略の一環として漢語会話の授業が存在するのであるが、中国朝鮮族の若者世代に当たる教員は、民族の文化というものにこだわること自体に大きな価値を見い出していないようであった。

漢語会話の授業は、他の授業とは異なり漢族の教員によって行われ、漢語の会話のみによって進行する授業である。この授業は漢族・朝鮮族を問わずすべての園児を対象としている。授業は、初めのあいさつから終わりまですべて漢語で進められ、周りのものについて説明したり、身振りで表現したり、みんなで一緒にゲームしたり、動いたりするなど、表情や身振りなども交えて、体験を通じて漢語で意思疎通を図る能力を育成するための授業である。分らない言葉に対しても朝鮮語による説明は行われず、教員の表情や身振りから意味を推測し、漢族の子どものまねをするなかで漢語を習得することが目指されている。

### 事例 3

教員：「今日は、本当に寒いですね。皆さん寒くないですか（今天好冷啊，你们不冷吗？）」両腕を両手で擦りながら、体をふるわせる。

子ども：「寒くないよ。（不冷啊。）」「寒い。（冷）」

教員の問いかけが理解できた子ども（多くは漢族）はすぐ問いかけに答えたが、言葉の意味を理解できなかった子ども（多くは朝鮮族）はどのように答えればよいかわからず、先に言った子どもの言葉を真似している。

また、漢語会話の授業ではアニメ鑑賞の時間にみたキャラクターのまねをしたり、中国語の童謡にあるおもちゃで遊んだりもする。

### 事例 4

中国語で翻訳された日本の「ドラえもん（哆啦 A 梦）」のまねで、紙を折ったり切ったりして袋を作り、お腹に貼る。また、袋の中にいろいろなものを入れ、友たちと交換する。その後、中国の歌「ウサギはかわいい（小兔子乖乖）」に合わせて、歌の中のウサギを真似して、園児たちはポンポンと跳ねる。

このように、対話形式の授業から音楽やアニメまでを通じて、漢語会話の授業では様々な方法で漢語を用いる機会を作り、漢語の授業の質を高めるための工夫を行っている。さらに、朝鮮族の子どもの漢語への関心を高めるために、漢族の文化的行事の説明を行うこ



ともある。

例えば、中国の祝日が近づくと、教員は中国に伝わる祝日の物語について説明したり、写真でその祝日の様子を提示したり、子どもたちに祝日の食べ物を食べさせたりすることで、漢族の文化への関心と呼び起こそうとしている。中国の祝日の食べ物として紹介されるものには、正月の餃子、中秋の月餅、端午の中華ちまき、元宵節の元宵団子などがある。

教員たちは、これらの活動を通じて朝鮮族の幼児が漢語へも興味を示すようになり、わかる単語や会話が増えていると、活動への手ごたえを感じている。最初に取り上げたような自由遊びでの朝鮮族と漢族の園児が共に遊ぶ様子や、漢語の授業での反応が増えているという実感、園児がわからない漢語の単語や会話について積極的に問いかけ自ら学ぼうとする姿勢を示すことなどを、教員たちは教育活動の成果だと感じているのである。このような成果は保護者も感じているようであり、近年ではより質の高い漢語の授業を目指して、朝鮮族の教員が教えていた通常の漢語の授業を1回減らして、代わりに漢族の教員による漢語会話の授業を1回増やそうという計画が話し合われている。

## 5. その他の活動

### (1) 食事・昼寝時間・おやつ時間

食事の時間には、教員と当番の子どもが全員の食器にキムチを取り分けている。食事は、ほとんどの場合ご飯、キムチ、スープ<sup>32)</sup>の3種類からなるが、漢族の食べ物である麵食の焼き面（炒面）や餃子（饺子）が出されることもある。

食事の時間には、テーブルの真ん中に中国式炒め物（炒菜）が置かれ、子どもたちはオンドルの上に直に座って一緒に食事をする。食事の前には必ず頭を下げ「いただきます。（잘 먹겠습니다.）」とあいさつをする。全員の食器にご飯が盛られるまで食事は始まらない。ご飯とスープはスプーンで食べ、キムチや炒め物は箸で食べる。多くの子どもはスープにご飯を入れて食べている。食べた後にも「ごちそうさまでした。（잘 먹었습니다.）」とあいさつをする。

昼寝は敷き布団をオンドルに敷いて寝る。昼寝が終わると、起きた人から自分の布団を自分で片付ける。布団が片付けられると、教員は子どもたちにおやつを配る。

教員からおやつをもらう時、子どもたちは両手でおやつを受け取り、食べる前に頭を下げ「いただきます。（잘 먹겠습니다.）」とあいさつをする。食べた後にも「ごちそうさまでした。（잘 먹었습니다.）」とあいさつをする。

また、食事の内容にも今回の目的に関連するものがあつたため、いかに簡単にまとめる。

### 1) 主食

米は朝鮮族にとって欠かせない食料であり、主食である。T幼稚園では、子どもは昼食として米飯は欠かせないものであった。しかし、漢族の主食である小麦粉料理などの中国式の料理も少しずつ摂取するようになってきている。小麦粉で作った食品には、「ギョーザ（饺子）」、「肉まん（包子）」、「蒸しパン（馒头）」、「焼き麵（炒面）」、「ラーメン（拉面）」など様々な種類がある。幼稚園の教員への聞き取りでも、焼き麵（炒面）やギョーザ（饺子）を時折出しているということであった。

<sup>32)</sup> ご飯、キムチ、スープは定番の食事である。ごはんは朝鮮族の主食であり、キムチは朝鮮族の伝統的な食べ物である。スープは日本という味噌汁であるが、これは植民地時代に日本から伝わって普及し朝鮮族が日常的に食べるものとなった。

## 2) 副食

漢族の食生活から学んだ「炒める」料理方法は朝鮮族の日常食に利用され、T 幼稚園でも子どもの昼食として、朝鮮族の伝統的な副食であるキムチや味噌汁と共に、炒め物（炒菜）が用意されている。

## 3) 主要な祝祭用の料理

T 幼稚園では、様々な祝祭に合わせて漢族の伝統料理を食べさせるとのことであった。ここでは主要な祝祭で食される料理を取り上げる。

### ①正月

朝鮮族が正月に食べる伝統料理は餅スープ（トック）やもち（チャルト）であるが、現在ほとんどの朝鮮族は正月にギョーザを食べる。大みそかの夜に必ず年越しギョーザを食べるのは東北地方に住む漢族の影響である。教員への聞き取りでも、T 幼稚園をはじめこの地域では正月にギョーザを食べているということであった。

### ②元宵節（旧暦 1 月 15 日）

朝鮮族の伝統では、1 月 14 日の夜に五穀米<sup>33)</sup>を食べるが、漢族は旧暦 1 月 15 日を元宵節と呼び、元宵（もち米製の皮の団子）を食べる伝統がある。T 幼稚園では朝鮮族の子どもに漢族の文化を理解させるために、元宵節には元宵を食べさせたりしている。

### ③端午（旧暦 5 月 5 日）

朝鮮族は端午の日によもぎもちを食べる風習があるが、T 幼稚園では端午の日に中華ちまきを食べさせている。中華ちまきは餅米を茅の葉っぱで包んだものであり、漢族の有名な詩人である屈原を記念するために食べる。

### ④中秋（旧暦 8 月 15 日）

朝鮮族は旧暦 8 月 15 日を秋夕と呼び、この日に祖先の墓参りをして、果物と穀物などの取れたての農作物で作った料理を供える。伝統的習慣としてこの日にソンピョン（松餅）を食べる。漢族は、この日を中秋節と呼び、満月のこの日には家族で月餅を食べる。T 幼稚園では中秋節に朝鮮族の子どもたちに月餅を食べさせて、漢族の文化に親しませるとしていた。

### ⑤誕生日

朝鮮族は誕生日にワカメ入りの味噌汁を食べる習慣があり、漢族は誕生日に長寿面（チャンシュメン）を食べる習慣がある。ビデオ撮影時に誕生日を祝う料理があつたが、先の例のように T 幼稚園では朝鮮族の子どもに誕生日にワカメ入りの味噌汁も食べ、長寿面（チャンシュメン）を食べていた。

## (2) 特別活動－誕生日パーティー

教員や保護者の漢語教育などの期待を受けて、園での様々な活動は伝統的な風習を残しながらも漢族の文化を受け入れるように動いている。現在の T 幼稚園では、朝鮮族の文化と漢族の文化を並行して提示することがしばしば行われる。

<sup>33)</sup> 五穀米は文字通り 5 つの穀物を用いた飯のことで、もち米、もちきび、もちアワ、あずき、豆が使われている。

ビデオの撮影中に、中クラスのある朝鮮族の女の子の誕生日があった。朝の登園時からその女の子は朝鮮族の民族服装である韓服を着て幼稚園にきた。教員と子どもたちは誕生日のお祝いの歌を朝鮮語と漢語で2回歌う。その日のお昼メニューはワカメスープ<sup>34)</sup>と長寿面（チャンシュメン）<sup>35)</sup>であった。

### (3) 手遊び

手遊び歌には延辺のものもあり、韓国の童謡や、中国語の歌を朝鮮語に訳した歌のほか、アメリカの歌を朝鮮語に訳した歌もある。これらは活動のために歌われるものであり、民族性よりも実用性の観点から用いられる傾向にあった。

## 6. 帰宅

T 幼稚園では、帰宅の時間にも音楽を流している。韓国の K-POP が 5、6 曲につき中国の音楽も 1、2 曲くらいの割合で韓国の音楽と中国の音楽が用いられている。子どもたちはバスで、あるいは保護者と一緒に帰る。教員と別れるときには必ず頭を下げ「さよなら（안녕히 계세요）」とあいさつをする。

## 第3項 教員の言葉遣い

幼稚園での教員の言葉遣いに注目すると、主に朝鮮語を用いているものの、漢語で話したり、朝鮮語と韓国語を混用したりすることがある。以下ではいくつかの例をあげる。

### (1) 漢語の使用

体育の時間に、走っている子どもたちに対して、教員は「頑張れ！（加油！）」や「早く！（快点！）」と漢語で応援している。また、昼寝の時間には、隣の子どもと話して寝つかない朝鮮族の子どもに対して「話さないで早く寝なさい！（别说话，快点睡！）」と注意をしている。

これらは、教員が朝鮮族の子どもに漢語を教えようとして意識的に漢語で話しているわけではなく、教員自身がすでに漢族の言葉を受容した世代であることと関係している。しかし、このような場面を通じて漢族の言葉が自然に朝鮮族の子どもに伝えられるのである。

### (2) 朝鮮語と韓国語の混用

ある朝鮮族の教員（25 歳）は、朝鮮語と韓国語を時折混用していた。例えば、美術の時間に「昨日描ききれなかった絵を続けて描きなさい（어제 못 그린 그림 마즈 그리세요）」などのようにである。この「마즈」は朝鮮語（延辺の方言）で「続けて」の意味であり、「～세요」は韓国語の述語で「～なさい」の意味である。また、「これは先に描かないと言ったでしょ（이거 먼저 아이 그린다고 했잖아요）」という注意も、「～ない」を意味する「아이」は朝鮮語（延辺の方言）であるが、「～잖아요」は韓国語の述語で、「でしょ」と訳せるものである。このように主に述語に、そしてここでは表現しきれないアクセントの差異として、韓国語は朝鮮語に取り入れられつつあり、その傾向は若い教員により明確に表れている。

<sup>34)</sup> 誕生日にわかめスープを食べるのは朝鮮族の風習である。わかめスープは産婦が子どもを産んだ後母乳のため食べるもので、子どもが初めに母乳を飲むときに母乳の中にわかめスープの成分が入っているという象徴的な意味を受けたものであり、母親への感謝の気持ちを表している。

<sup>35)</sup> 長寿面（チャンシュメン）は漢族の人が誕生日の時に食べるものであり、文字通りに長寿を願うものである。食べ方はいろいろあり、碗のなかの長寿面（チャンシュメン）を周りの人と一緒に食べる方法や、一人で全部を食べる方法などがある。

### (3) 標準語・韓国語

朝鮮語の授業や幼稚園の生活の中では標準語が主に用いられる。延辺の標準語は、韓国語とも同じ言語体系に属しているものの、アクセントや述語の点で韓国語とは異なるものであった。しかし、近年ではこの標準語は朝鮮族のなかでも年配の人だけが用いるようになり、韓国語が標準語的に用いられるようになってきている。ただし、両者には共通した部分も多く、延辺の標準語か韓国語かを明確に規定できない場合もある。

例えば、朝鮮語の授業で教員がカギの絵を出して「これは何ですか」と尋ねたとき、子どもたちが「鍵(열대)」と答えた際、教員が「鍵(열대)ではなくで、標準語で鍵(열쇠)」と言いなさい」と指導した場面は、標準語の指導とも韓国語の指導とも取れる。またエビの絵を示して「これは何ですか」と尋ねた時に、子どもたちは延辺の方言で「エビ(새비)」と答えたが、教員はそれに対して「エビ(새비)ではなくで、標準語でエビ(새우)」と言いなさい」と指導しているが、これもどちらの指導とも取れるものである。

しかし、その他の言語使用の状況からは、これが標準語というよりも韓国語である可能性が示唆される。例えば、挨拶場面は「おはようございます(안녕하세요)」 「さよなら(안녕히 가세요, 안녕히 계세요)」とはっきりと韓国語のあいさつとなっている。また、子どもと教員はシールを「스티커」と呼んでいるが、延辺の方言では「그림붙이개」となる<sup>36)</sup>。

このように教員自身の言葉遣いに朝鮮語と韓国語を混用があることや、朝鮮語の授業であっても標準語として韓国語を教えることの背景には、現在の朝鮮族が多様なメディアを通じて韓国文化に親しんでいることがある。韓国のドラマや、映画、音楽などは延辺でも見聞きできるものであり、多くの朝鮮族は中国国内では違法になる方法にも関わらず日常的に韓国のテレビ番組を見ている。また、韓国に旅行や出稼ぎに行ってきた人も多いため、朝鮮族の生活の中で用いる言葉が韓国語的に変わってきた部分が多々あるのである。

## 第4項 文字環境への配慮

T 幼稚園では、基本的に朝鮮族の文字と漢族の文字が併用される傾向にあった。文字使用に関しては、朝鮮族の幼児が漢語を身近に感じられるように配慮がなされている。

子どもの靴箱の名前は、朝鮮族の子どもの場合は朝鮮語と漢語で書かれており、漢族の子どもの場合は漢語のみで書かれている。また、中クラスの本棚の中には韓国で製作された『銀梯子、金梯子(은사다리 금사다리)』や『ヘンゼルとグレーテル(헨젤과 그레텔)』、『アリとベチャン(개미와 베짚이)』などが用意されており、中国語の絵本としては『お風呂に入る(我要洗澡)』『謎を解く(猜谜语)』『童謡を楽しく学ぶ(快乐学儿歌)』などが用意されている。廊下やクラスの壁に貼られた子どもの描いた絵も、内容を文字であらわす際には朝鮮語と漢語の二つの文字が併用されている。そのほかにも、教室の壁には「朝鮮語の勉強(우리말 공부)」という朝鮮語文字と「漢語の発音(汉语拼音)」と書かれた表が貼られている。しかし、階段の曲がり角に貼られた注意書きは標識として中国で流通している「安全(安全)」という漢字だけが張られていた。

## 第3節 民族教育

これまで朝鮮族の幼稚園の事例を見てきたが、第3節と第4節では、それらをふまえて

<sup>36)</sup> 実際には、ここで用いられている語源自体は英語の sticker であり、この言葉はどちらもその音をまねたものである。外来語の受容において延辺の標準語と韓国語で発音が異なったため区別がつくが、この単語自体は厳密に朝鮮語というわけではない。

朝鮮族の幼稚園で朝鮮族の幼児たちがどのような民族教育を受け、異文化経験をしているのかについて考察する。まず第3節では、朝鮮族の幼稚園の民族教育の側面を考察する。T幼稚園の事例から明らかになるのは、朝鮮族の民族教育としては朝鮮語の教育を挙げることができるものの、実際には生活に残された文化的側面を受容的に用いている、という程度に留まっていることであった。

## 第1項 民族語の教育

中国政府も重要な項目と位置づけていたように、民族語の存在と使用は、ある民族にとって民族性を確認する重要な側面である。民族語が民族を区分する唯一の基準というわけではないが、民族語は民族の独自性を示す共有財産であり、民族語を用いていることで民族の共通性を確認し連帯感を育むことができる。また、言語の構造が思考を規定するという意味においても、民族語の存在は民族性を規定しているといえよう。そのため、文化的の同質性を形作る中心として民族語は機能するのである。近代以降民族語はとりわけ民族固有の財産として尊重される傾向にあるし、グローバル化が進む現代では、地理的な区分の無意味化や情報の広範囲の伝達によって民族語の消失が生じており、これが差異を生み出す装置の喪失につながって、結果として民族性の消失につながることは否定できない。民族語を保存しようとすることは、上述のような理由から確かに重要な民族教育の構成要素といえよう。

したがって、朝鮮族の幼稚園教育において、教授言語や幼稚園生活の中で用いる言語が朝鮮語であることは、延辺で日常的に使用される言語が朝鮮語であることの結果としてだけでなく、民族教育の一環であるといえる。T幼稚園の事例でも、朝鮮語は様々な場面で用いられていた。朝鮮語の授業はもちろん漢語の授業（漢語会話の授業を除く）も朝鮮語を用いて教えられていたほか、朝鮮族の教員と子どもたちや朝鮮族の子どもたち同士の間の会話も朝鮮語で行われていた。このように民族語の保存が可能なのは、中国の少数民族教育政策において民族語の使用を正当な権利として認めていることも関係している。

しかし、朝鮮語の授業において、教員が朝鮮語の正しい発音を教えようとし、延辺の方言を否定していたことは注目に値する。このような傾向は、民族の文化内の差異の縮減を目指す近代化の動きととることができるからである。確かに朝鮮族の幼稚園において、生活の中だけではなく、子どもを教える教授言語までも朝鮮語とし、標準語を推奨して使用される言語を統一することは、朝鮮族を独自の言語・文字を用いる民族として維持し、生活でも朝鮮語を用いていくために有用であろう。しかし、裏を返せばこれは文化内にある差異には朝鮮族自身が無頓着であることを意味する。標準語の推奨は、近代国家が標準語を定めていった過程と類似しているともとることができる。

## 第2項 生活の一部としての朝鮮族の文化

民族語の使用だけでなく、生活に溶け込んだ文化的側面も、朝鮮族の幼稚園では伝承されている。T幼稚園においては、授業だけではなく室内のすべての活動がオンドルの上で行なわれていたが、これは典型的な朝鮮族の伝統的な生活様式でもある。朝鮮族は、勉強するとき、食事をするとき、寝る時などを含めすべての室内活動をオンドルの上で行なうのである。

オンドルでの生活の特徴は空間の変換にある。すなわち、テーブルを置くと勉強できる教室になり、食卓を置くと食堂になり、布団を敷くと寝室になるといったように、同じ空間が複数の目的で使用されるのである。これは寒い地方で効率的に暖を取る工夫であったであろうが、朝鮮族の生活様式、たとえば床の上で寝る、食事を床に座って食べる、など

のふるまいはオンドルを前提としなければ成立しなかったであろう。そのような空間の変換に付随して、幼児たちが日常的にオンドル上のものを片付ける習慣が継承される。朝鮮族の幼稚園で子どもたちは寝る際に、オンドルの上に布団を敷いて寝る。そして起きた後には自分で当然のように布団を片付ける。このような生活習慣は、オンドルが様々な目的で用いられるために生じたものである。西洋の固定されたベッドを前提とした生活に代表される目的ごとに空間を変える生活とは異なり、オンドル空間では活動に応じて準備や片付けを行ってこそほかの活動が可能になるのである。

また、T 幼稚園で昼食では、ほとんど毎日ご飯とキムチ、スープを食べていた。これらすべては現在の朝鮮族が日常的に食べているものであり、伝統的な食文化そのものではないにしても、現在の朝鮮族の嗜好を反映したものとなっている。

これらはすべて、朝鮮族の暮らしの中で慣れ親しんできたものであり、生活のなかで形成され、存続している朝鮮族の共有された文化である。T 幼稚園でそのような生活をするのは、朝鮮族の子どもに朝鮮族の文化を伝承することを目標としてするわけでは決してないが、このような習慣の継続こそ、文化伝承の典型といえるであろう。

また、より意図的な教育場面のなかでも民族の文化的な作法が影響した場面も存在した。礼儀に関する側面はその主要な部分である。

T 幼稚園では教員と子どもが挨拶をしていた場面ではしばしばみられた、姿勢を正しての丁寧なあいさつは、典型的な朝鮮族の礼儀に関する意識を表している。授業が始まる前に改まって「おはようございます」とあいさつし、授業が終わった後は「ありがとうございます」と感謝の気持ちを表現する。これらのあいさつはすべて、姿勢を正して立ち、頭を下げて行っている。食事の場面でも、食事前には「いただきます」、食事後には「ごちそうさまでした」とあいさつしている。教員からものをもらう際や教員にものを上げる際に両手を使うのも、このような礼儀の意識からである。また体操が終った後は当然のように大クラスから順序正しく室内に入り、小小クラスの子どもたちは最後に入る。これらのあいさつや行動は、教員や先輩のような目上の人に対する尊重を行う文化的型の伝承の場面に他ならない。T 幼稚園での子どもたちの振る舞いに見られる礼儀は、朝鮮族の礼儀に関する行動規範の一部分に過ぎないが、このような振る舞いを通じて、朝鮮族の子どもたちは自らの文化を習得していくのである。

このように、民族教育に関しては、T 幼稚園において明確な意図のもとに行われるものは少なく、言語教育のほかは、朝鮮族の規範意識に基づいた礼儀に関する一連の振る舞いが朝鮮族の文化を伝える主要な方法であった。朝鮮族の幼稚園とはいえども、意図的に朝鮮族の子どもに朝鮮族の文化を教えようとすることは多くないのである。むしろ、次節で検討するように、T 幼稚園で特徴的だったのは、T 幼稚園での生活が朝鮮族内で起きる文化変容を反映していたことである。新しい生活文化の伝播に関しては、幼稚園での異文化経験が重要な役割を果たしているのである。

#### 第4節 異文化経験

朝鮮族の幼稚園で行われる異文化経験の意義についての当初の仮説は、漢語の学習などの経験などに伴って、朝鮮族幼稚園での経験が民族文化の伝承だけでなく、朝鮮族の幼児が自らを中国国内のマジョリティとは異なることを自覚する起点になるのではないかというものであった。しかし、本調査のなかで明らかになったのは、朝鮮族が自らの文化を伝承しようとしている以上に、自らの文化を変容させていることであった。その主要な動因は韓国の経済発展と、中国経済の将来への期待であろう。朝鮮族は伝統を保持するという後ろ向きな考えで教育を行っているのではなく、中国・韓国において必要とされる人材

を育成するために積極的な教育を行っているのである。そして、これは実際には民族の生き残りをかけた戦略という意味でまさに民族のための教育であり、異文化への迎合などではないのである。また、韓国への近接に関しては、自民族の成功事例として異質なものとよりも、同質のものとみなそうとしていることも指摘できる。

## 第1項 韓国語・韓国文化の流入

T 幼稚園の事例や先行研究にみられるように、延辺では、朝鮮語の授業において延辺の方言の使用をできるだけ避け、標準語を教えることに力を入れている。そして、この標準語は地理的にも言語的にも類似した北朝鮮の言葉ではなく、韓国語により近いものであった。1992年に中国と韓国の交流が始まってから、朝鮮族と韓国人との接触が増加してきた。朝鮮族の言語と韓国語は、文法は同じであっても単語やアクセントに違いがあった。しかし、このような異質性の経験は、民族の独自性を際立たせる方向ではなく、韓国の言語への近接という道を歩ませることになった。また、韓国企業への就職などを考える場合にも、言葉が通じるというアドバンテージをより確かなものにするために、韓国語への近接はメリットがある。

T 幼稚園の事例にある韓国語表現の流入、あるいは混用は、とりわけ述語の部分に多い。たとえば、挨拶の言葉の「おはようございます」「さようなら」は、延辺の表現ではなく完全に韓国語となっている。また、「昨日描き切れなかった絵を続けて描きなさい(어제 못그린 그림 마즈 그리세요)」にある「마즈」(続けての意味)は朝鮮語(延辺の方言)であり、「～세요」(～なさい)は韓国語の述語であった。さらに、英語の発音を元にした言葉を朝鮮族の子どもに教える場合にも、朝鮮族が用いていた音よりも韓国語の音が採用されるようになっていた。

T 幼稚園での韓国語的表現を25歳の朝鮮族の教員が用いていたことに表れているように、現在の中国朝鮮族の間では特に若い世代を中心として韓国文化への憧れのような感情が存在しているし、積極的に韓国文化を取り入れようとしている。これは朝鮮族の生活と比して経済が発達した韓国は、決して異文化とすべきものではなく、成功した朝鮮民族という意味で同一化の対象になるためである。魅力的で発展した韓国というイメージは、朝鮮族にとっては自分たちの成功の表象となりうるのである。一方で、韓国の側からすれば古めかしく時代遅れものに感じられる北朝鮮の言葉と類似した自分たちの方言は、韓国人との会話において通じなくはないにしろ、古臭いものとして避けられるようになってきているのである。

また、言葉だけではなく、音楽や絵本など、様々なメディアを通じて、韓国文化は中国朝鮮族の幼児にとって身近なものとなりつつある。朝鮮語の授業で韓国で製作された絵本を読んだり、アニメ鑑賞の授業において韓国のアニメを鑑賞したりすること、また自由遊びの時間や音楽の授業、手遊びの時間においても韓国の音楽を流したり、韓国の童謡を学んだりすることで、朝鮮族の子どもは韓国の文化に身近に接触しているのである。K-POPの使用などは、古い世代であれば子どもに聞かせることをためらっていたものまでが幼稚園に浸透したことを表しており、子どもへの配慮というよりも朝鮮族にマスメディアの打ち出したモデルが受容されていく過程とも見ることができる。このほかにも幼児の仲の良い異性を指して、教員が幼児に対して「カレンシ」「カノジョ」などに相当する言葉を用いている場面なども存在していた。これらは本来は韓国文化の流入という側面だけで説明しつくせないものであるが、ここでは、K-POPなどの歌詞などにもある恋愛に重きを置く文化が、幼稚園にも入り込みつつあることを指摘するに留める。

このように、韓国文化を肯定的に受け入れているだけでなく、朝鮮族の社会にも、国民

性という概念によって韓国を別の国として差異化する視点も存在している。これらは自分化と類似しつつ異なるものに対する同化への抵抗を示しているのかもしれないが、T 幼稚園の事例を見る限り、教員も含めて韓国への憧れはそれ以上に強いものである。

## 第2項 漢語・漢族文化の学習

韓国語・韓国文化の受容が、自民族の成功事例を同一化しようとしている動きとして説明できるなら、漢語や漢族文化の学習は、中国国内・韓国の両面を意識した朝鮮族の生き残り戦略としての側面を強く有したものである。

### 1. 漢語

漢語の授業は小学校以降の教育では義務付けられているが、現在では幼稚園でも漢語の授業が設けられ、重視されている。漢語は、中国国内での成功、韓国との交流の中での朝鮮族の成功の両面に関係するものとして重要である。漢語の教育の質量は、T 幼稚園の教員の話にもあったように延辺朝鮮族の保護者の園選択に重要な影響を与えると考えられるまでになっている。幼稚園側からすれば、漢語の授業を行うことで朝鮮族の幼児が漢族の幼稚園に通うことを防ぐことにもなり、また園の経営も安定するため、自民族への教育を重視するためには漢語を導入しなければならない、というジレンマを背負うことにもなっている。

中国国内で漢語の学習が重要になった契機は、1978 年の中国共産党 11 期 3 中全会の決議にある。この会議で中国の市場経済が始まって以降、東部沿岸部の経済が飛躍的に発展し、内陸部から東部沿岸部への人口移動が急激に進行することになった。発展に伴う人口移動は朝鮮族に関しても生じており、延辺朝鮮族自治州でも、経済的に発展した大都市及び東部沿岸部への移動が始まった。朝鮮族が集住し漢族との接触が多くなかったため、かつて延辺の朝鮮族共同体の生活では、漢語を用いなくても生活に支障はなかった。しかし、延辺朝鮮族共同体からほかの地域へ出て活動するためには、中国における共通語である漢語を習得することが重要になってきたのである。このような社会に適応させるために、保護者は子どもが幼い頃から漢語を勉強することを希望しており、幼稚園で漢語の授業の存在と漢語授業の質は保護者が幼稚園を選ぶ条件になっている。さらに幼児期は言語記憶にふさわしい時期であるという考えも存在し、朝鮮族の幼稚園では漢語教育を積極的に取り入れることになった。T 幼稚園の漢語の重視もこのような経緯によるものである。

対韓国という側面でも、漢語学習の重要性は増している。中国内での有利な状況を獲得しようとする韓国企業が、朝鮮族よりも漢族を採用する動きがあるためである。韓国企業はかつては韓国語の会話による意思疎通が可能な朝鮮族を優先的に採用する傾向があったが、このような傾向は中国との接触が増えるにつれなくなりつつある。これは漢語のネイティブのほうが中国での活動の際に有利である点と、漢族と関係を強化したほうが党幹部をはじめとした中国国内の有力者との関係がうまくいくためである。このうち人脈や影響力に関しては不利な競争であることは否めないものの、少なくともネイティブ並みの漢語の習得については朝鮮族にも可能になるものであり、結果として漢語の授業はより重視されることになるのである。

これらの理由から、T 幼稚園においても、朝鮮族の子どもの漢語水準を高めるためにさまざまな工夫が行われていた。

#### (1) 授業

授業における漢語の重視の最たるものは、漢族の教員が朝鮮族の子どもの漢語授業を担



当する漢語会話の授業の存在である。漢族の教員は、そのほかにも毎朝園に入ってくる子どもたちに挨拶し、保護者と子どもの様子について話し合う。漢語会話や漢語の授業以外でも、子どもの漢語水準を高める取り組みがなされている。中国のアニメや、中国語で翻訳された外国のアニメ、中国語の童謡などは、子どもに漢語を学ぶ環境を提供している。幼稚園では、子どもたちが漢族の教員のふるまいを見て漢族の文化に親しみ、アニメや童謡を通じて漢語が身近な存在となるように配慮されているのである。朝鮮族の教員による漢語の授業は、漢族のものを朝鮮族教員が教えるということによって文化の序列を伝達するかもしれないが、漢語教育の全体のなかで占める重要性は限定的なものである。

## (2) 遊びの時間

自由遊びの時間にも、中国語の童謡も用いられている。幼児が自由に遊ぶ際に、童謡を鑑賞したり、また童謡に合わせて自分なりに踊ったり、ハミングしたりできる環境が作られている。

## (3) 掲示物などでの二言語表記

さらに、掲示物などの T 幼稚園の園環境も漢語の習得を意図したものとなっている。これらは、朝鮮族の幼児を漢語の存在する環境に慣れさせることに主眼があるようである。朝鮮族の子どもの名前は朝鮮語と漢語二つの文字で書かれ、廊下やクラスの壁などに掲示されるときにも朝鮮語と漢語の二言語が使われている。また、階段の壁には幼児に目立つようにデザインされた朝鮮語と漢語の文字で掲示がされている。漢語に関しては生活で使う言語でないこともあり、「汉语拼音(漢語発音)」という発音を示す記号も付されている。

## 2. 朝鮮族の幼児の食文化

中国朝鮮族は中国への移住後も、朝鮮半島の同胞とは異なる独自の文化や風習を形成するようになり、中国文化の摂取はその重要な要因となっている。これは食文化についても同様である。儀礼の重視や床に座って食べるなどのオンドルを中心とした生活は変わらないものの、中国朝鮮族は漢族の食材を取り入れている。ここでも、朝鮮族の伝統的な食べ物だけでなく、漢族の食べ物も取り入れる、という並列的な受容方法をとることが多い。

また、食べ物の面においても言葉と同様に漢族の文化が流入している。例えば、昼食のメニューとして、時々漢族の食べ物である麺食である焼き面(炒面)や餃子(饺子)が出されるが、これも教員が朝鮮族の子どもに漢族の文化を教えるために用意するというよりは、朝鮮族が時折食べるようになったこれらの食べ物が園でも出されているといったほうが実情に近く、漢族の文化に親しんだ大人たちの文化が漢族化していることを示している。

T 幼稚園の場合には、比較的漢族の文化を経験するという意味が強かったものの、朝鮮族の伝統的な料理を経験させようという意識は希薄であった。近年では、韓国との接触によりの韓国の食文化を自文化の伝統として見直す動きもあるが、大局的には食文化に漢族の伝統が入り込むことを朝鮮族は受け入れているといえよう。

## 第5節 まとめ

実際の朝鮮族の幼稚園においての教育を分析した結果、朝鮮族の民族教育としては朝鮮語の教育と生活を通じた朝鮮族の文化の教育をあげることができる。しかし、朝鮮語の教育は別としても、朝鮮族の文化に関しては教員が意図的に子どもたちに伝えようとすることは多くない。

また朝鮮族の子どもたちは、T 幼稚園において韓国と中国という二つの異文化を経験し

ていた。朝鮮語の教育において、T 幼稚園では標準語の教育を重視しているが、標準語は延辺の方言に近い朝鮮語よりも韓国語により近いものである。また、言語だけではなく、歌や絵本などの情報からも韓国の文化は朝鮮族の幼稚園に入ってきている。さらに、第2章で扱った事情から、中国の発展に伴って朝鮮族の幼稚園では漢語の教育が重視されるようになってきている。教員たちは、漢語の言葉を教えるだけではなく食文化までも巻き込んで、朝鮮族の子どもにより漢語を身につけさせようとしている。

T 幼稚園の事例や現在の朝鮮族の教育の状況をふまえると、朝鮮族の幼稚園では民族の文化を伝承することより、自らの文化を変容させてでも民族としての成功や発展を勝ち取ろうと格闘しているようである。一見すると韓国文化が流入し、漢語が重視されていく延辺の幼稚園の状況は異文化への同化に思われるかもしれないが、これは朝鮮族が有利に現在の状況を生き抜くために必要な教育だと感じられているものであり、朝鮮族の幼稚園での教育は民族の生き残りをかけたまさに民族のための教育となっているのである。

## 引用・参考文献

### 日本語文献

- 1) 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開－中国の普通話政策との関わりを中心に－」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第7期第2号、2010、pp. 71-84

### 中国語文献

- 1) ラジヨンイル「黒龍江省の朝鮮族幼児学前教育現状の調査報告」『黒龍江民族丛刊（双月刊）』第2期、2011、pp. 164-170
- 2) 「幼稚園工作規定」中華人民共和国の国家教育委員会、1996
- 3) 「延辺朝鮮族自治州の幼稚園工作規定」延辺朝鮮族自治州教育委員会、1990
- 4) 「朝鮮族の幼稚園教育課程」東北三省教育委員会、1999年（決定）2000年（実施）
- 5) 「幼児教育の管理を強化することに関する意見」延辺朝鮮族教育局、2007
- 6) 崔美玉「朝鮮族幼児教育の質量分析及びその対策」『吉林省教育学院学报』第23巻第7期、2007、pp. 14-15
- 7) 李美善、金春徳「二言語教育：民族幼児教育のひとつの重要な部分－朝鮮族幼児の二言語教育の研究報告－」『中国民族教育』第10期、2006、pp. 21-23
- 8) 延辺教育情報資源網 <http://www.ybedu.net/web1/show.aspx?id=476&cid=23> 張文（2007）『環境を創設し、朝鮮族幼児の二言語会話能力を高めることに関して』
- 9) 于春海「延辺朝鮮族自治州学前教育発展の問題に関する意見」中国人民政治協商会議延辺朝鮮族自治州第十一回委員会第四次会議、2011

### 韓国語文献

- 1) バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、pp. 121-151

## 終章

### 第1節 朝鮮族の幼稚園における民族教育と異文化経験

本研究では、延辺の市立幼稚園である T 幼稚園の生活から、朝鮮族の幼児が幼稚園においてどのように民族の文化を受け継ぎ、また異文化を経験しているのかを明らかにしてきた。ここで改めて、幼児の経験について、中国の幼稚園に共通するものや他の民族の幼稚園に共通するもの、朝鮮族の幼稚園の特徴について整理して提示する。

#### 第1項 中国の幼稚園に共通する経験

中国の幼稚園教育に広く共通すると考えられるのは、授業形式で決まった時間割に沿って教育が行われる、という点である。中国においても、近年では先進的な幼稚園が様々な教育方法を取り入れ、新たな教育方法を模索しているが、授業形式の幼児教育は極めて一般的である。日本と類似した領域という考え方は国家のスタンダードにも存在しているが、教科に近い単位である科目の教育が決められた時間に行われるという形式は広く中国にみられるものである。園生活において幼児は、授業内容や活動、環境のなかで漢語や漢族の文化に触れることになるであろうが、その詳細については本研究の範疇を超えるため明確に示すことはできていない。また、中国の国家のスタンダードには多少なりとも漢族の価値観が反映されていると考えるのが自然であり、幼稚園の経験はその基準に影響を受けることになる。

#### 第2項 少数民族の幼稚園に共通する経験

少数民族の幼稚園教育に共通するものとしては、本研究でも度々指摘してきたように二言語教育が挙げられる。様々な民族の幼児は、漢族の多数居住する散住地区においてはそもそも幼稚園で民族語に接する機会がないものの、民族地区の民族の幼稚園においても第二言語としての漢語に触れることになる。法的な規定が明確にあるわけではないが、小学校以上では必須の二言語教育は民族幼稚園においても主要な特徴であるといえる。そのような場合、しばしば自分たちの民族とは異なる漢族の教員と接触する。そこで異文化の経験が計画されているか否かにかかわらず、幼児たちは漢族の教員との接触自体から異文化を経験することになる。また、漢語の教育を重視し、漢族の文化に親しませる、ということも T 幼稚園の事例を勘案する限り、民族の幼稚園でしばしば生じていることのように思われる。

これらの特徴は、必ずしも政府の二言語教育の重視の結果だけによるものだけではない。T 幼稚園は私立の幼稚園であったが、独自の教育を行える環境でも、漢語の習得や漢族の文化に親しませることは重要な課題であった。中国国内の発展や、沿海部と内陸部の大きな経済格差などによって、とりわけ周縁に多い民族地区において、幼稚園での教育はそれぞれの民族の生き残りをかける重要な投資であり、中国において民族が生活し発展を享受していくためには、漢族との交渉やより良い条件での就職を求める競争に参加する必要があるのである。このような傾向が民族性を意識したものであるかに疑問が残るかもしれないが、漢族の言語や文化に触れる最良の環境である漢族の幼稚園が存在するなかで民族の幼稚園を選択し、その上で漢語の教育の強化などが望まれているという状況は、民族の幼稚園での教育が、マジョリティである漢族の幼稚園での教育とは異なるものとして受け入れられていることを意味している。現在では民族の幼稚園はどちらかといえば衰退傾向にあるとはいえ、未だに民族の幼稚園に期待がされていることは重要である。一方で、漢族中心の中国社会での成功の基礎を築く場として、民族の幼稚園でありながら漢族の文化の教育を強調し、民族の文化を軽視する教育を行わざるをえないでいることも指摘しておか

なければならない。以上から、民族の幼稚園に通う幼児は漢族の言語や文化を幼稚園で経験するものの、民族の文化を受け継ぐ十分な機会は与えられていないといえよう。

### 第3項 朝鮮族の幼稚園に独自の経験

朝鮮族の幼稚園に独自の部分として、朝鮮半島に存在する同じ民族集団の二つの国である韓国と北朝鮮の繁栄状況に影響を受けるということがあるだろう。地理的に、そして言語的・文化的に極めて北朝鮮に近い延辺であるが、現在朝鮮族が標準語としているものが韓国語に近いものとなっているように、そして T 幼稚園が韓国からの文化を積極的に取り入れていたように、延辺の朝鮮族の幼児たちは韓国文化という漢族のものとは異なるもう一つの異文化に接触することとなっている。他の民族とも共通する漢語や漢族の文化に関する教育は計画的な側面が強い一方で、韓国の文化を幼児たちが経験する背景として、朝鮮族の大人たちの民族としての同一視と、発展した国である韓国への憧れが指摘できる。特に、朝鮮族により近い北朝鮮の言語や文化ではなく韓国の文化が朝鮮族に強い影響を与えはじめているのは、朝鮮族の間で同じ民族として韓国の人々を見るまなざしが存在するためであり、朝鮮族の住む地域よりも北朝鮮よりもより豊かな社会に思われる韓国の文化を積極的に摂取しているのではないだろうか。結果として子どもたちは、韓国語や韓国文化という異文化を、自文化の規範的なあり方として経験することになる。

### 第4項 T 幼稚園における民族教育と異文化経験

T 幼稚園では明らかに漢語の習得を重要視し、漢族文化を経験させようとしていた。しかし、延辺のような朝鮮族の集住地区においては、先行研究にあったような散住地区の場合のように民族教育を積極的に推進しようという意識は強くない。これは決して延辺の人々が民族教育を軽視しているわけではない。むしろ、自民族の存続を危ぶむほどのアイデンティティの危機がない延辺では、民族の文化の継承は、朝鮮族が中国の発展のなかで成功を収めることによってこそ達成できるものと考えられているようであった。

このような環境のなか、T 幼稚園ではおそらく多くの民族の幼稚園と同様に、漢語を重視した教育が行われていた。これには保護者の希望や T 幼稚園が自民族の子どもたちに選ばれるためであり、教員たちは朝鮮族の文化を軽視しているわけではなかった。しかし、民族教育は積極的に行われているとはいえない状況にあった。また、K-POP や韓国のアニメ・絵本などの韓国文化の伝達や若い教員の言葉の韓国語化は、「同じ民族」という観点で容易に民族文化内の差異を軽視する素地にもなりかねないものであった。一方で中国文化に目を向ければ、漢語会話の授業を増やす計画や、様々な場面での漢族の食文化の導入をはじめとして、朝鮮族の生活のなかでの漢族文化への親しみ以上に積極的に漢語や漢族文化を取り入れようとする視点がみとれる。

当初の予想とは異なり、異文化経験が民族性を意識させる、という場面は T 幼稚園の事例からは明確に見られなかった。本研究を通じて明らかになったのは、異文化経験が朝鮮族の幼児たちの生活を規定している現状であった。T 幼稚園の状況にある程度の一般性を認めるとすれば、朝鮮族の幼児たちは、異質性を伴う文化を標準的なものとして経験しているのである。これは、現在の中国朝鮮族の幼稚園が普遍的にもちうる構造的な問題であるように思われる。

## 第2節 朝鮮族の幼稚園の課題

以上のように朝鮮族の幼稚園では、中国と韓国という大きく2種類の異文化を幼児たちが経験していた。その一方で、民族教育を意図的に行う部分は少なく、朝鮮族の生活や習

慣がときおり幼稚園でも確認できる程度となっていた。

確かに民族の健全な発展とは、自文化に閉じこもり、過去の伝統を固守することではなく、現在の状況に合わせて多様な他者とのかかわり合い、相互交渉の中で文化変容を遂げていくことかもしれない。しかし、以下の2つの点で、現在の朝鮮族の幼稚園には課題があるように思われる。

1点目は、T幼稚園でしばしば見られた朝鮮族の文化と漢族の文化を並列する、という手法が漢族の文化を朝鮮族に教えることを主眼にしている点である。朝鮮語と漢語を並列して書く、朝鮮族の料理と中国の料理を共に出す、といった習慣からは、自文化と他文化を共に尊重しようとする姿勢が見て取れる。しかしながら、T幼稚園の場合、様々な祝祭に合わせて提供される料理は漢族のものだけの場合も多く、朝鮮族の幼児には朝鮮語と漢語の両方で名前を示すものの漢族の子どもは漢語だけで示すなど、漢族の文化の強調に傾きすぎるきらいがあるように思われる。朝鮮族の多数住む延辺においてすら漢族の文化が優位にある教育が行われるような現状では、中国と朝鮮族との間の相互交渉による文化変容による健全な発展という考えは、実際には同化という現実によって画餅に帰す可能性がある。

2点目は、T幼稚園の環境や教員たちの韓国への傾倒の問題である。韓国の文化を自民族のものにとらえつつ、韓国の成功を同一視できるような中国朝鮮族の素朴な心情は、異質性に対する感受性を低くすし、韓国文化を標準的なものとみなす問題を伴うかもしれない。朝鮮族の言葉と同じ言語体系といえども、実際には延辺にも方言と標準語があり、さらに韓国語はさらに遠い言語である面もある。それに関わらず、韓国文化を積極的に取り入れていることに関しては注意が必要である。韓国からすると自分たちの失った文化を保持しているとすらみなされる中国朝鮮族にとって、韓国から学ぶ「民族性」とはどのようなものであろうか。同じ民族である、という認識は些細に思われる差異を軽視するきっかけにつながる。本当に朝鮮族の文化を教育によって伝えようとするのであれば、より繊細に異質性をとらえることも必要になる。先行研究で指摘されていたような韓国文化に触れた、あるいは韓国に行った朝鮮族が感じる異質性は、延辺においてもより大切にしていなければならないのではないだろうか。その上で、朝鮮族としての民族教育についてもより自覚的になる必要があるように思われる。

民族教育を通じて自民族の理解と異なる民族の文化への尊重の姿勢を幼児に教育することは重要なことであり、中国国内の少数民族として朝鮮族が漢族との共生共存の道を求めることである。朝鮮族は朝鮮語を学習し、漢語も学習する。その一方で漢族側も朝鮮文化への理解を深め、相互の発展に寄与しようとする。このような関係を築くために、朝鮮族の幼稚園は文化の橋渡しをすることのできる重要な場所である。しかし現在の朝鮮族の幼稚園における漢族の文化の学習は、漢族の努力を伴わない片務的なものになっている。このような一方向的な教育あり方は、韓国や中国の発展に乗るという成功局面ではうまくいくものの、何らかの躓きが生じた時には容易に不満へと転化するものではないだろうか。

中国朝鮮族の幼稚園での教育は、グローバル化する世界で、中国国内、韓国との関係を結びつつ自分たちの文化を柔軟に変容させていく朝鮮族の生活を反映するものであったが、幼稚園教育からの周辺文化への適応が過剰でないかは常に検討し、より適切な幼児への民族教育を行えるように、朝鮮族自身も考えていくことが必要である。

### 第3節 今後の課題

本研究では中国朝鮮族の幼児が経験するであろう民族教育と異文化経験の特徴を明らかにし、朝鮮族の幼児たちが幼稚園で様々な差異を経験しながらも、それらの差異の経験

が必ずしも民族を意識するという方向には向かっておらず、民族教育自体も必ずしも強調されていないことを事例を通じて明らかにした点で、今後の朝鮮族の幼稚園の在り方を考えていく重要な問題を提起できたと考える。しかし扱った朝鮮族の幼稚園は T 幼稚園に限られており、T 幼稚園がどの程度標準的であったかについてはさらなる検討が必要である。また、長期の調査を通じて、より詳細な朝鮮族の伝統や習慣の影響や異文化としての中国文化や韓国文化の影響を、幼児の経験という視点から明らかにすることも必要である。

形式的にはすべての民族が平等であるとしているにしろ、中国国内における漢族とその他の民族の扱いには実質的には大きな違いがあり、少数民族は不利な状況におかれている。そのようななかで民族の幼稚園が果たしうる役割は大きいはずである。減少傾向にあるにせよ民族の幼稚園もまだまだ存在しており、そこには保護者たちの民族としての教育への期待も存在するはずである。朝鮮族には漢族の文化のほかにも韓国などの別の異文化の影響があり独自の部分はあるが、本研究で指摘した点が中国の他の民族の幼稚園の教育に対する問題提起になれば幸いである。

## 引用・参考文献

### 日本語文献

- 1) 浅野房雄、中山千章、足立広美「中国の幼児教育・保育」つくば国際短期大学『紀要』第 35 巻、2007、pp. 23-29
- 2) 崔斌子「中国における朝鮮族教育の四十五年」東京都立大学人文学部『人文学報 教育学』30、1995、pp. 247-281
- 3) 曹能秀、無藤隆「中国における幼児教育の現状と課題」『お茶の水女子大学こども発達教育研究センター紀要』第 3 巻、2006、pp. 39-44
- 4) ハスゲレル「中国における少数民族教育の現状」首都大学東京『教育科学研究』第 21 巻、2006、pp. 11-18
- 5) 哈斯額爾敦「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題ー内モンゴル自治区の民族教育を中心にー」名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻『多元文化』第 5 巻、2005、pp. 265-280
- 6) 金紅梅「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開ー中国の普通話政策との関わりを中心にー」立命館大学政策科学研究科『政策科学』第 7 期第 2 号、2010、pp. 71-84
- 7) 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育ー「民族平等」理念の展開ー』東信堂、2001
- 8) 趙貴花「グローバル化時代の少数民族教育の実態とその変容ー中国朝鮮族の事例ー」『東京大学大学院教育学研究科紀要』47、2008、pp. 177-187
- 9) 張瓊華「中国における二言語教育と少数民族集団の選択」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第 41 巻、2001、pp. 211-224
- 10) 新島翠「少数民族に対する中国語学習指導法の再検討ー二言語教育の応用例としてー」『聖徳学園岐阜教育大学紀要』第 34 巻、1997、pp. 191-200
- 11) 出羽孝行「中国朝鮮族の民族教育の現状に関する実証的研究」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』29、2007、pp. 130-144
- 12) 魯在化 解説・訳「資料中国延辺朝鮮族教育史年表」東京学芸大学『国際教育研究』9、1989、pp. 22-44
- 13) 金成子「中国都市部における民族教育に関する一考察：北京に住む朝鮮族を事例として」『アジア社会文化研究』第 11 期、2010、pp. 37-57
- 14) 尹貞姫「中国における「国民教育」と「少数民族教育の相克」ー中国朝鮮族学校における教育課程に着目してー」『国際開発研究フォーラム』30、2005、pp. 183-200
- 15) 権寧俊「朝鮮人の「民族教育」から朝鮮族の「少数民族教育」へ」『文教大学国際学部紀要』第 15 巻 2 号、2005、pp. 175-203
- 16) 李海燕「中国共産同の国家統合とエスノナショナリズムー延辺朝鮮族自治州の場合ー」『中国研究月報』第 60 巻 2 号、2006、pp. 18-31
- 17) 登坂学「中国少数民族教育の概念に関する一考察ー「多文化教育」と中国「少数民族教育」の比較を通じてー」『九州保健福祉大学研究紀要』5、2004、pp. 85-93
- 18) 李恩郷「中国東北部朝鮮族の台所空間の近代化と食生活の変容ー農村部朝鮮族の事例研究を中心にー」『中国研究月報』第 60 巻 10 号、2006、pp. 15-34
- 19) 中尾美千子「中国の幼児教育事情について：『就学前教育』：日本との共通点とその差異点について」『関西女子短期大学紀要』第 18 巻、2009、pp. 37-46
- 20) スチンゴワ「教育内容からみる中国少数民族教育：モンゴル民族学校における教科書分析を中心に」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』59、2007、pp. 81-82

- 21) 朴月善「中国における朝鮮族の教育と民族意識」『日本教育学会大会研究発表要項』67、2008、pp. 226-227
- 22) 宮島美花「エスニック・トランスナショナル・アクター再考（3・完）－朝鮮族のアイデンティティ、コネクション、民族ネットワーク－」『香川大学経済論叢』第 80 巻第 4 号、2008、pp. 111-133

## 中国語文献

- 1) 「中華人民共和国の義務教育法」第 6 回全国人民代表大会第 4 次会議、1986 年（制定）
- 2) 「中国教育の改革と発展状況」中華人民共和国教育部、2004
- 3) 『中国大百科全書』（教育編）、第 2 版、中国大百科全書出版社、周光召を主任とした総編集委員会、2009
- 4) 「普通大学の学生募集の工作規定」教育部、2008
- 5) 「中華人民共和国憲法」中華人民共和国第 5 回全国人民代表大会第 5 次会議、1982  
「中国人民共和国憲法」第 10 回全国人民代表大会第 2 次会議（修正）、2004
- 6) 「中国的少数民族政策及其实践」－4、各民族の協調的発展の促進、白書  
「中国的少数民族政策及其实践」－5、少数民族の文化の保護、発展、白書
- 7) 「中華人民共和国国家通用言語文字法」2000 年の中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会第 18 次会議（決定）、2001 年（実施）
- 8) 「民族文化を保護することに関する意見」（关于做好当前民族文化工作的意见）中華人民共和国文化部、中華人民共和国国家民族事務委員会、1980
- 9) 「少数民族古籍を守ることに関する指示」（关于做好当前民族文化工作的意见）中華人民共和国国家民族事務委員会、1984
- 10) 「中華人民共和国民族区域自治法」第 6 回全国人民代表第 2 次会議、1984 年（決定）  
「中華人民共和国民族区域自治法」第 9 回全国人民代表大会常務委員会第 20 次会議、2001 年（修正）
- 11) 「マルクス・無神論研究と教育工作の宣伝に関する通知」、中央組織部、中央宣伝部、中央文明委、中央党校教育部、中国社会科学部、2004
- 12) 「2005 年少数民族漢語教員の漢語訓練班の成果顯著（2005 年少数民族汉语教师普通话培训班成果显著）」教育部言語文字応用管理司、2005 年 10 月 8 日
- 13) 「幼稚園教育指導綱要」中華人民共和国教育部、1999 年（制定）、2001 年（実施）
- 14) 「民族教育工作の強化においての問題に関する意見」中華人民共和国教育委員会、中華人民共和国民族事務委員会、1992
- 15) 「少数民族の教育を強化することに関するいくつかの意見」国家教育委員会と国家民族事務委員会、1992
- 16) 「民族教育工作の強化に関する意見」中華人民共和国教育部、国家民族事務委員会、1980
- 17) 「民族中小学校のカリキュラムの試行案」青海省、1984
- 18) 「チベット自治区の藏語を学習・使用・発展することに関する規定の実施」チベット自治区、1988
- 19) 「中国第一次全国人口調査」中華人民共和国国家統計局、1953
- 20) 「幼稚園工作規定」中華人民共和国の国家教育委員会、1996
- 21) 「延边朝鮮族自治州の幼稚園工作規定」延边朝鮮族自治州教育委員会、1990
- 22) 「朝鮮族の幼稚園教育課程」東北三省教育委員会、1999 年（決定）、2000 年（実施）
- 23) 「幼児教育の管理を強化することに関する意見」延边朝鮮族教育局、2007



- 24) 戴慶厦、董艶「中国の少数民族二言語教育の歴史(上)」『民族教育研究』1996、pp. 50-57
- 25) 戴慶厦、董艶「中国の少数民族二言語教育の歴史(下)」『民族教育研究』1997、pp. 50-61
- 25) 戴慶厦、関辛秋「中国の少数民族の二言語教育の現状及び発展趨勢」『黒竜江民族叢書(ハルビン)』第1期、1998、pp. 112-115
- 26) 謝君君「海南の少数民族教育の発展と文化伝承」『教育評論』03期、2011、pp. 108-110
- 27) 馬効義、丁剛「宗教の民族性と少数民族の風習習慣の尊重」『前線雑誌』第12期、2002、pp. 82-84
- 28) 道布「中国の言語政策と言語計画」『民族研究』第6期、1998、pp. 42-52
- 29) バクテェジュ「朝鮮族教育の歴史の特徴と基本経験」『延辺大学学報：社科版』2003、pp. 45-48
- 30) 申英美「中国朝鮮族教育の問題に関する研究」『中央民族大学』2006、pp. 1-54
- 31) 王紀芒「中国朝鮮族の民族アイデンティティと国家アイデンティティ」『民族学院学報：哲学社会科学版』第26巻第4期、2008、pp. 15-30
- 32) ラジョニイル「黒龍江省の朝鮮族幼児学前教育現状の調査報告」『黒龍江民族丛刊(双月刊)』第2期、2011、pp. 164-170
- 33) 崔美玉「朝鮮族幼児教育の質量分析及びその対策」『吉林省教育学院学報』第23巻第7期、2007、pp. 14-15
- 34) 李美善、金春徳「二言語教育：民族幼児教育のひとつの重要な部分－朝鮮族幼児の二言語教育の研究報告－」『中国民族教育』第10期、2006、pp. 21-23
- 35) 延辺教育情報資源網 <http://www.ybedu.net/web1/show.aspx?id=476&cid=23> 張文(2007)『環境を創設し、朝鮮族幼児の二言語会話能力を高めることに関して』
- 36) 于春海「延辺朝鮮族自治州学前教育発展の問題に関する意見」中国人民政治協商會議延辺朝鮮族自治州第十一回委員会第四次會議、2011
- 37) 張鋭「少数民族優遇政策についての探析」『文山学院学報』第23巻第3期、2010、pp. 69-89
- 38) 滕星、馬効義「中国高等教育の少数民族の優遇政策と教育平等」『民族研究』第5期、2005、pp. 191-208
- 39) 滕星「小康社会と西部貧困地区の少数民族の基礎教育」『雲南民族大学学報』第4期、2004、pp. 148-150
- 40) 曹彦麗「民漢二言語教員の専門素質に関する研究」『中央民族大学』2011、pp. 1-82
- 41) キムクムラン「延辺地区幼児教育の問題と対策」『延辺大学』2007、pp. 1-51

## 韓国語文献

- 1) バクジャファン「南韓と中国朝鮮族の幼稚園教育課程の比較研究」『未来幼児教育学会誌』第2期、2000、pp. 121-151
- 2) キムハンジョン「朝鮮総督府の教育政策と教科書の発行」『歴史教育研究』第9号、2009、pp. 295-329
- 3) 「中国朝鮮族の文化発展についての対策」『黒龍江省新聞』2007年5月22日